

(書式第十五)

身分證明書

何府「縣」何郡「市」「區」何町「村」大字何何番地  
族籍職業何誰何女(姊妹等)

名

- 一、教育ノ程度
  - 二、處刑處罰ノ有無及平素ノ行狀
  - 三、父母(養父母共)ノ身分職業
  - 四、民法上差支ノ有無
  - 五、其他結婚ノ許可ニ付參考トナルヘキ事項
- 右證明ス

大正 年 月 日

府、縣、町、市、町、村長 氏

名印

陸軍常備團隊配備表

(大正七年 發表)

(東京)			
近衛軍第一旅團(東京) 近衛軍第二旅團(同) 騎兵第一旅團(習志野) 野砲兵第一旅團(東京)	近衛步兵第一聯隊(東京) 近衛步兵第二聯隊(同) 近衛步兵第三聯隊(同) 近衛騎兵第一聯隊(習志野) 近衛騎兵第二聯隊(同) 近衛騎兵第三聯隊(同) 近衛砲兵第一聯隊(東京)	鐵道工兵第一聯隊(東京) 鐵道工兵第二聯隊(東京) 鐵道工兵第三聯隊(東京) 鐵道工兵第四聯隊(東京) 鐵道工兵第五聯隊(東京)	通信隊第一聯隊(東京) 通信隊第二聯隊(東京) 通信隊第三聯隊(東京)
步兵第一旅團(東京) 步兵第二旅團(同) 騎兵第二旅團(習志野) 野砲兵第二旅團(國府臺)	步兵第一聯隊(東京) 步兵第二聯隊(東京) 步兵第三聯隊(東京) 步兵第四聯隊(東京) 步兵第五聯隊(東京) 步兵第六聯隊(東京) 步兵第七聯隊(東京) 步兵第八聯隊(東京) 步兵第九聯隊(東京)	步兵第十聯隊(東京) 步兵第十一聯隊(東京) 步兵第十二聯隊(東京) 步兵第十三聯隊(東京) 步兵第十四聯隊(東京) 步兵第十五聯隊(東京) 步兵第十六聯隊(東京) 步兵第十七聯隊(東京) 步兵第十八聯隊(東京)	步兵第十九聯隊(東京) 步兵第二十聯隊(東京) 步兵第二十一聯隊(東京) 步兵第二十二聯隊(東京) 步兵第二十三聯隊(東京) 步兵第二十四聯隊(東京) 步兵第二十五聯隊(東京) 步兵第二十六聯隊(東京) 步兵第二十七聯隊(東京)
野砲兵第三旅團(下志津)	野砲兵第一聯隊(東京) 野砲兵第二聯隊(東京) 野砲兵第三聯隊(東京)	野砲兵第四聯隊(東京) 野砲兵第五聯隊(東京) 野砲兵第六聯隊(東京)	野砲兵第七聯隊(東京)
步兵第三旅團(名古屋) 步兵第四旅團(津) 步兵第五旅團(名古屋)	步兵第一聯隊(名古屋) 步兵第二聯隊(名古屋) 步兵第三聯隊(名古屋)	步兵第四聯隊(名古屋) 步兵第五聯隊(名古屋) 步兵第六聯隊(名古屋) 步兵第七聯隊(名古屋) 步兵第八聯隊(名古屋) 步兵第九聯隊(名古屋)	步兵第十聯隊(名古屋) 步兵第十一聯隊(名古屋) 步兵第十二聯隊(名古屋) 步兵第十三聯隊(名古屋) 步兵第十四聯隊(名古屋) 步兵第十五聯隊(名古屋) 步兵第十六聯隊(名古屋) 步兵第十七聯隊(名古屋) 步兵第十八聯隊(名古屋)
步兵第十九旅團(和歌山) 步兵第二十旅團(大阪)	步兵第一聯隊(和歌山) 步兵第二聯隊(和歌山)	步兵第三聯隊(和歌山) 步兵第四聯隊(和歌山) 步兵第五聯隊(大阪) 步兵第六聯隊(大阪) 步兵第七聯隊(大阪) 步兵第八聯隊(大阪) 步兵第九聯隊(大阪)	步兵第十聯隊(大阪) 步兵第十一聯隊(大阪) 步兵第十二聯隊(大阪) 步兵第十三聯隊(大阪) 步兵第十四聯隊(大阪) 步兵第十五聯隊(大阪) 步兵第十六聯隊(大阪) 步兵第十七聯隊(大阪) 步兵第十八聯隊(大阪)

陸軍各師團配備表



第三			第二			第一			管轄區域	
第十	十五	第五	二十	三	第一	第二	第一	第一	管轄區域	管轄區域
津	桑名	岐名 古屋	山形	仙臺	若松	福島	福島	福島	甲府	麻布
三重縣	三重縣	愛知縣	山形縣	宮城縣	福島縣	福島縣	福島縣	福島縣	山梨縣	東京府
飯津市	員辨郡	東春日井區	栗原郡	仙台市	若松市	相馬郡	福島市	信夫郡	神奈川縣	東京都
飯南郡	宇治郡	東春日井區	志田郡	本吉郡	東白河郡	安積郡	雙葉郡	石川郡	橋本郡	伊豆郡
多氣郡	山田郡	西多郡	黒川郡	岩瀨郡	北會津郡	大沼郡	南會津郡	宮城縣	高座郡	牛久保郡
度會郡	海部郡	西春日井區	玉造郡	登米郡	南會津郡	南會津郡	南會津郡	宮城縣	淺草郡	小笠原郡
志摩郡	安濃郡	西春日井區	加美郡	遠田郡	南會津郡	南會津郡	南會津郡	宮城縣	南足立郡	小笠原郡
北牟婁郡	南牟婁郡	西春日井區	宮城郡	宮城郡	南會津郡	南會津郡	南會津郡	宮城縣	南足立郡	小笠原郡
北牟婁郡	南牟婁郡	西春日井區	宮城郡	宮城郡	南會津郡	南會津郡	南會津郡	宮城縣	南足立郡	小笠原郡
北牟婁郡	南牟婁郡	西春日井區	宮城郡	宮城郡	南會津郡	南會津郡	南會津郡	宮城縣	南足立郡	小笠原郡
北牟婁郡	南牟婁郡	西春日井區	宮城郡	宮城郡	南會津郡	南會津郡	南會津郡	宮城縣	南足立郡	小笠原郡
北牟婁郡	南牟婁郡	西春日井區	宮城郡	宮城郡	南會津郡	南會津郡	南會津郡	宮城縣	南足立郡	小笠原郡

陸軍管區表

陸軍管區表

備考	第二十	第十九	第十八
	(龍山) 師團	(羅南) 師團	(久留米) 師團
一、臺灣及滿洲ニ在ル常備團休ハ本表以外トス	步兵第三十九旅團(平壤) 步兵第四十旅團(龍山)	步兵第三十七旅團(羅南) 步兵第三十八旅團(會寧)	步兵第二十四旅團(久留米)
二、第十九師團及第二十師團ハ當分ノ内規定ノ衛戍地外ニ分屯セシムルコトナレ得	步兵第七十七聯隊(平壤) 步兵第七十八聯隊(龍山) 步兵第七十九聯隊(會寧) 步兵第八十聯隊(會寧)	步兵第七十三聯隊(羅南) 步兵第七十四聯隊(威寧) 步兵第七十五聯隊(會寧) 步兵第七十六聯隊(會寧) 步兵第七十七聯隊(會寧) 步兵第七十八聯隊(會寧) 步兵第七十九聯隊(會寧) 步兵第八十聯隊(會寧)	步兵第四十八聯隊(久留米) 步兵第四十九聯隊(久留米) 步兵第五十聯隊(久留米) 步兵第五十一聯隊(久留米) 步兵第五十二聯隊(久留米) 步兵第五十三聯隊(久留米) 步兵第五十四聯隊(久留米) 步兵第五十五聯隊(久留米)

陸軍各師團配備表

陸軍管區表

Table with 7 main columns (第 八, 九, 八, 七, 七, 三) and multiple rows listing military districts and their constituent prefectures/counties. Includes terms like 函館, 旭川, 青森, 秋田, 弘前, etc.

陸軍管區表

Table with 7 main columns (第 十, 六, 五, 四, 四, 第七) and multiple rows listing military districts and their constituent prefectures/counties. Includes terms like 札幌, 沖繩, 鹿兒島, 熊本, 山口, etc.

第十		第六十			第五十			第四十							
第十三第	三十三第	九十第	八十第	九十二第	七十第	八十二第	七十二第								
松江	濱田	岡山	福山	奈良	京都	敦賀	大津	濱松	静岡	飯田	豊橋	熊谷	高崎	宇都宮	水戸
島根縣	島根縣	岡山縣	廣島縣	奈良縣	京都府	福井縣	滋賀縣	静岡縣	静岡縣	長野縣	愛知縣	埼玉縣	群馬縣	栃木縣	茨城縣
周吉郡	松江郡	備前郡	尾道市	相樂郡	上京區	遠敷郡	大津市	小笠原郡	安曇郡	西筑摩郡	上野郡	豊橋市	兒玉郡	大里郡	
八束郡	八束郡	都賀郡	福山市	葛野郡	下京區	三方郡	甲賀郡	磐原郡	駿東郡	下伊那郡	豊島郡	秩父郡	入間郡		
海士郡	美濃郡	赤松郡	神石郡	乙訓郡	愛宕郡	滋賀縣	蒲生郡	引佐郡	加茂郡	愛知縣	瀬豆郡	八寶郡	南設樂郡		
知夫郡	鹿足郡	川上郡	深安郡	紀伊郡	宇治郡	愛知縣	三重縣	阿山郡	名賀郡	伊賀郡	東淺井郡	高田郡	犬上郡		
仁多郡	廣島縣	淺津郡	甲奴郡	久喜郡	神崎郡	高島郡	阪田郡	高島郡	大上郡						
鳥取縣	雙三郡	後月郡	愛媛縣												
日野郡		小田郡	宇摩郡												
			新居郡												

第三十		第二十			第十		第十							
六十二第	五十第	五十三第	二十第	二十二第	第十	十二第	第十	十二第						
高田	松本	村松	新發田	福岡	小倉	大分	中津	高知	善通寺	徳島	丸龜	神戶	福知山	
中頸縣	長野縣	新潟縣	新潟縣	福岡縣	福岡縣	大分縣	大分縣	高知縣	香川縣	徳島縣	香川縣	兵庫縣	兵庫縣	福井縣
高田郡	南安曇郡	北魚沼郡	新瀨原郡	早良郡	田川郡	大分市	東國郡	香川郡	仲多度郡	勝浦郡	高松市	多可郡	朝來郡	大飯郡
西頸城郡	北佐久郡	南魚沼郡	東蒲原郡	糸島郡	糟屋郡	直野郡	西毛郡	高岡郡	徳島縣	那賀郡	香丸郡	加西郡	美上郡	京都府
東頸城郡	南佐久郡	三島郡	佐蒲原郡	朝倉郡	築紫郡	若松市	日田郡	長岡郡	阿波郡	海部郡	綾歌郡	武庫郡	加古郡	北桑田郡
長野縣	東筑摩郡	中魚沼郡	古志郡	佐賀縣	嘉穂郡	八幡市	宮崎郡	宇佐郡	阿波郡	美馬郡	高知縣	明石郡	加東郡	南桑田郡
上水内郡	北安曇郡			西松浦郡	東松浦郡	山崎郡	熊本縣	阿蘇郡						天田郡
下水内郡				長崎縣	豊浦郡	豊浦郡	厚狹郡							竹野郡
高井郡														加佐郡
														何野郡
														鹿野郡

陸軍管區表

考 備	第 十 八			
	四十二第	三十二第	四	
一、師管ノ番號ハ師團ノ番號ト、旅管ノ番號ハ歩兵旅團ノ番號ト同一トス 二、臺灣及樺太ノ管區ハ追テ定ム	高瀬	久留米	佐賀	大村
	熊本縣 玉名郡 鹿本郡 天草郡	福岡縣 三浦郡 山門郡 三池郡 浮羽郡	佐賀縣 杵島郡 藤津郡 城郡 長崎縣 北高來郡	長崎縣 西彼杵郡 北松浦郡 南松浦郡 東彼杵郡

海軍管區表

關東州海軍區	第 一				區	書	軍	港	所	管	
	第五	第四	第三	第二							
關東州ノ海岸海面	對島及朝鮮ノ海岸海面	長門國大津、豐浦郡界ヨリ本土西海岸ニ浴ヒ羽後陸奧國界ニ至ルノ海岸海面及隱岐、佐渡ノ海岸海面	筑前國遠賀宗像郡界ヨリ九州西海岸及同南海岸ニ浴ヒ日向大隅國界ニ至ルノ海岸海面及沖繩諸島ノ海岸海面並臺灣澎湖列島ノ海岸海面	紀伊國南牟婁、南牟婁郡界ヨリ長門國大津、豐津郡界ニ至リ又筑前國遠賀宗像郡界ヨリ九州東岸ニ浴ヒ日向大隅國界ニ至ルノ海岸海面及四國ノ海岸海面並内海	羽後、陸奧國界ヨリ本土東海岸及全南海岸ニ沿ヒ紀伊南牟婁東牟婁郡界ニ至ルノ海岸海面小笠原島及北海道ノ海岸海面並ニ樺太嶋ノ海岸海面	相模國三浦郡 横須賀	安藝國安藝郡 吳	肥前國東彼杵郡 佐世保	丹後國加佐郡 舞鶴	朝鮮慶尙南道昌原郡 旅順鎮守府	横須賀鎮守府 吳鎮守府 佐世保鎮守府 舞鶴鎮守府

## 第五編 一般ニ關スル件

## 第一章 青年團

## 其一 青年團ノ來歴

我國ノ青年團ハ今ヲ距ルコト七百餘年前征夷大將軍源賴朝カ兵馬倥傯ノ時勢ヲ承ケ殺伐驕豪動モスレハ喜ンテ亂ヲ構ヘントスルノ風アル當時ノ青年氣風ヲ融和センカ爲メ鎮守ノ祭典行事ヲ擔當セシメ尙ホ進ンテ部落ノ警護ニ任セシメ以テ彼等ニ娛樂趣味ヲ兼ネテ敬神且ツ愛郷心ノ涵養ニ努メ郷村ノ弊風ヲ矯正シ地方改良ヲ策セシ自治集團ノ創設ヲ以テ嚆矢トス此レヨリ各地ニ神社ノ行事ヲ擔當シ矯風ヲ目的トスル娛樂ノ團體勃興シ若衆組トナリ若連中トナリ地方ノ風土習慣ニ基キ各種ノ青年團ヲ發達セシメタリ然レトモ此等昔時ノ若連中カ蟬脫シテ今日ノ青年會トナリシハ早キハ自治制及ヒ憲法ノ發布當時ニシテ而シテ明治二十七八年戰役及三十七八年戰役若シクハ戊申詔勅ノ發布ヲ記念トシテ新ニ誕生シタル青年會亦尠トセス中ニハ同窓會、報德會等ヨリ轉化シタル青年團及ビ少數ノ基督教青年會、佛教青年會等ヲ含有スルモ要スルニ現時大多數ノ青年會ハ娛樂矯風ヲ目的トセル若衆組ヨリ系統ヲ引ケルモノニシテ其歴史ヨリ言ヘハ日本青年團ハ世界ニ於テ最モ古ク且ツ比類ナキ特色ヲ有スルモノナリトス如上ノ如ク我國青年團ハ其來歴古クシテ且ツ地方ノ風土習慣等ニ依リテ發達ノ歴史ヲ異ニシ異種異様ノ觀ヲ呈シ從テ聯絡統一ヲ缺キ到底時勢ノ進運ニ伴ヒ地方及ヒ國家ニ對スル青年ノ地位使命ヲ保持増進セシムルコト不可能ナルヲ以テ大正五年二月田中參謀次長、一木法學博士、井上東京府知事等ヲ主腦トセル全國青年團統一指導機關タル青年團中央部創設セラレ延テ地方青年團ノ統一ニ盡瘁シ益々其結果ヲ固フシ内容ノ充實ト實質ノ洗鍊トニ一段ノ策勵ヲ加ヘ潑瀾ナル活動ヲ爲サシムルニ至レリ斯クシテ大ニ其面目ヲ改メ舊來ノ主旨綱領タリシ矯風娛樂ノ狹少ナル範圍ハ擴充セラレ智德体育ヲ練磨シ健全ナル國民善良ナル公民タルノ素養ヲ訓練スルノ主義方針確立セラレ爾來駸々乎トシテ長足ノ發展ヲ見ルニ至リタリ而シテ現時已ニ其團體二十三萬一個團員三百三十七萬四千九百三十四人ヲ算スルノ隆盛ヲ見ルニ至レリ

## 其二 歐洲強國青年團ノ起因ト其主義方針

## 一、英國 青年團

英國少年ノ最多數ヲ占ムル下層社會ノ子弟ハ多クハ滿十一歲ニテ學校ヲ止メ其後何等教育ヲ受クルコトナク社會ノ惡風ニ感染スルノミニシテ精神、身體共ニ惡影響ヲ蒙ルコト甚シク國家ノ前途大ニ憂フヘキモノアリトハ識者ノ夙ニ憂慮シツツアル所ニシテ英國ノ青年教育ハ即チ是等下層少年ヲ教養シテ益々國家將來ノ基礎ヲ堅フセムトノ趣旨ヨリ生シ其最モ古キハ千八百八十年代ニ起レリ然レトモ最初ノモノハ宗教家ノ組織セルモノニシテ活氣アル有爲ノ青年ヲ養成スルニ適セス其後千八百九十八年南阿戰爭ニ際シ「バーデンパウエル」中將カ戰時大ニ少年ノ用ユ可キモノアルヲ看破シ戰後母國ニ於テ少年斥候隊ヲ唱導セルモノ是レ即チ其濫觴ナリトス而シテ其主義方針ハ青年團兒ノ入團ニ先タチ要求セル左ノ誓約及義勇團規則ニ於テ詳シク解スルヲ得

ハシ

入團契約

我が名譽にかけて神と王と我が義務を加へ如何なる時にも他人を助け義勇團員の規則に従はんか爲に我が最善の途を盡さむ

義勇團規則

- (一) 團員は名譽を重んずべし
- (二) 團員は國、將校、兩親、雇主に對し忠實なるべし
- (三) 團員は他人を助くべし
- (四) 團員は他人に對し親切なるべし
- (五) 團員は禮義を重んずべし
- (六) 團員は動物に對し親切なるべし
- (七) 團員は從順なるべし
- (八) 團員は快活なるべし
- (九) 團員は儉約なるべし
- (一〇) 團員は勇氣を尙ふべし
- (一一) 團員は清潔なるべし
- (一二) 團員は敬虔なるべし

二、佛蘭西青年團

佛蘭西ノ青年團ハ國防ノ見地ノ下ニ組織セラレ其教育ハ頗ル軍事的ノモノナリ蓋シ佛蘭西ハ人口繁殖率ノ寡少ナル關係上獨逸ヲ凌グノ兵備ヲ整ヘ以テ千八百七十年戰役ニ於ケル屈辱ヲ雪グノ不可能ナルヲ思ヒ絶ヘス青年ノ志氣ヲ鼓舞振作シ同時ニ兵備補充ノ目的ヲ以テ青年團体ヲ編成シ主トシテ軍事教育ノ普及ヲ企テシ所以ナリ而シテ千八百八十一年頃時ノ陸軍大臣「ビウロ」訓令ヲ發シ其教育ヲシテ全然軍隊ノ服務ヲ模倣シテ教育スベク改メタリ爾來多少ノ消長アリシモ獨國ノ數次ノ軍備擴張ト國際關係緊張ト度益増加スルトニ伴フ國民ノ敵愾心ハ近年益々

此事業ノ發展ヲ助長シタリ

三、露國ノ青年團

露國ノ青年團ハ曾テ「ベートル」大帝カ幼少ノ時貴族ノ青年ヲ集メテ一團ヲ編成シ自ラ之ヲ指揮セシヲ以テ濫觴ト稱スレトモ這般ノ歐洲大戰前露西亞ニ存在セシ青年隊ハ日露戰爭ニ蒙リシ屈辱ノ挽回ト革命的危險思想ノ瀾漫トヲ豫防シ且ツ皇帝ニ忠實ニシテ又露國ヲ愛スルノ觀念ヲ涵養シ尙ホ進メテ心身ヲ鍛鍊シ良兵ノ基礎ヲ與フルヲ以テ之カ主義方針トセル團体ナリトス而シテ其指導實施ノ方法ハ佛蘭西ニ倣ヒタルモノトス

四、獨逸ノ青年團

獨國ニ於ケル青年教育ノ由來ハ英國ノ夫レニ類似シ物質的文明ノ進歩ニ伴フ青年ノ墮落ヲ救済シ心身共ニ健全ニシテ有爲ナル良青年ヲ養成セントスルニアリテ佛國ノ如ク軍事豫備教育ヲ其直接ノ目的トシテ起リタルモノニアラス然レトモ佛蘭西ニ於テ青年ニ軍事的教育ヲ施シ大ニ其志氣ヲ鼓舞スルノ傾向アルヲ以テ之ニ對抗スルノ意味ニ於テ千九百十年普民ハ他ノ聯邦ニ率先シテ此教育ノ統一ヲ企テ他ノ聯邦モ亦之ニ倣ヒ次デ獨逸政府ハ千九百十二年從來ノ諸團体ヲ統一スルノ目的ヲ以テ青年團逸會ナル團体ヲ組織スルノ布告ヲナシ團体精神共ニ健全ニ能ク規律ヲ守リ公共ノ德義ヲ重ンシ神ヲ敬フノ觀念ニ富ミ且ツ愛國心ノ旺盛ナル獨逸國民ヲ養成スルノ主義方針ヲ確立スルニ至レリ然ルニ歐洲大戰ノ勃發スルヤ青年ニ入營前或ル程度ノ軍事豫備教育ヲ施スノ極メテ必要ナルヲ認メ茲ニ戰役間青年ノ教育ヲ全然陸軍ノ手ニテ統轄スルコト、シテ全獨國ノ青年ハ各地方毎ニ從來ノ教育團体ヲ基礎トシ滿十六歲乃至徵兵適齡迄ノ者ヲ以テ青年



中隊ヲ編成シ將校ヲ以テ此中隊ノ教育ヲ指導セシムルコトトセリ而シテ其成果ハ今次戰亂ニ際シテ遺憾ナク發揮セラレ世界ヲシテ驚愕セシメタリキ

### 其三 內務文部兩大臣ノ訓示並ニ內務文部兩省訓令

#### 一、內務文部兩大臣ノ訓示

青年團體ノ設置ハ今ヤ漸ク全國ニ洽ク其振否ハ國運ノ伸暢地方ノ開發ニ影響スル所殊ニ大ナルモノアリ此際一層青年團體ノ指導ニ努メ以テ其完全ナル發達ヲ遂ケシムルハ内外現時ノ情勢ニ照シ最喫緊ノ要務タルヘキヲ信ス

抑モ青年團體ハ青年修養ノ機關タリ其主旨トスル所ハ青年ヲシテ健全ナル國民善良ナル公民タルノ素養ヲ得セシムルニ在リ隨テ團體員ヲシテ忠孝ノ本義ヲ體シ品性ノ向上ヲ圖リ体力ヲ増進シ實際生活ニ適切ナル智能ヲ研キ剛健勤勉克ク國家ノ進運ヲ扶持スルノ精神ト素質トヲ養成セシムルハ刻下最モ緊切ノ事ニ屬ス其之ヲシテ事業ニ當リ實務ニ從ヒ以テ練習ヲ積マシムルモノ亦固ヨリ修養ニ資セシムル所以ニ外ナラス夫レ團體ニシテ其嚮フ所ヲ誤リ以テ施設其宜シキヲ得サルコトアラナムカ雷ニ所期ノ成績ヲ擧ケ得サルノミナラズ其弊ノ及フ所測リ知ルヘカラサルモノアラシ故ニ地方當局者ハ須ク此ニ留意シ地方實際ノ情況ニ應シ最モ適實ナル指導ヲ與ヘ以テ團體ヲシテ健全ナル發達ヲ遂ケシメンコトヲ期スヘシ

#### 二、內務文部兩省訓令

青年團體ハ青年修養ノ機關タリ曩ニ其本旨ノ存スル所ヲ訓令シ更ニ其依違スヘキ所ヲ通牒セシメタリ爾來時勢ノ進展ハ益々之カ振興ノ機運ヲ促進シ經營並ニ指導亦漸ク眞摯ヲ加ヘタリト雖

組織ノ井然タルモノアルニ比シ内容往々ニシテ之ニ伴ハス其多クハ尙點睛ヲ缺クノ憾ナシトセ

今ヤ世界戰亂ノ衝動ハ汎ク精神上並ニ經濟上ノ各方面ヲ掀盪シ殊ニ國民思想上ノ刺戟ニ至リテハ一層深甚ナルモノアラントス顧フニ此曠古ノ變局ニ處ンテ嚮フ所ヲ誤ラス更ニ戰後激甚ナラムトスル國際ノ競争ニ應シテ帝國ノ基礎ヲ堅實ニシ毅然トシテ其重キヲ中外ニ爲サシムルモノ國家活力ノ源泉タル青年ノ努力ニ待ツ所多シ之ヲシテ益國體ノ精華ヲ尊重シ心身ヲ研究シテ將來更ニ規模ノ大ヲ加フヘキ實務ノ負擔ニ堪フルノ力ヲ涵養セシムルハ刻下最要ノ先務タリ青年團體ノ指導ヲ以テ任ト爲スモノハ宜シク立國ノ本義ト世界ノ大勢トニ徴シテ其適順スル所ヲ闡明シ能ク青年ノ心理ヲ諒解シテ理之ヲ誨ヘ情之ヲ掖ケ身ヲ以テ範ヲ示シ苟モ其歸趨ヲ誤ラシメサランコトヲ期スヘシ若シ夫レ經濟ノ變調ニ伴ヒテ華靡頹唐漸ク其風ヲ成スカ如キニ至リテハ國家ノ健全ナル進運ヲ茶毒スルコト尠シトセス青年ノ教養亦宜シク此ニ留意シテ其操守ヲ堅ウセシメ益篤實剛健ノ氣風ヲ興サシムルニ務ムヘシ

今青年團體ノ現狀ニ顧ミ之カ健全ナル發達ニ資スヘキ當今ノ要項ヲ左ニ條舉シ以テ地方ノ實況ニ照シ參酌シ宜シキヲ制シメムコトヲ期ス

一、青年ヲシテ實地活用ノ智徳ヲ進メシムルハ補習教育ニ待ツモノ多シ之カ施設ニ勉メ相率エテ學ニ就カシメ以テ其普及ト徹底トヲ圖ラムコトヲ要ス

一、公共ノ精神ヲ養ヒ公民タルノ性格ヲ陶冶スルハ青年ノ教養ニ於テ闕クヘカラサル要綱タリ補習教育ノ施設其他適切ナル方法ヲ講ジ以テ其目的ヲ達成センコトヲ要ス

一、方今圖書ノ刊行セラルルモノ多ク之ニ伴ウテ青年ノ讀書趣味ヲ増進スルモノ尠シトセス能ク其撰擇ヲ慎ミ青年ヲシテ健全ナル識見ヲ廣ウセシメンコトヲ要ス

二、青年ノ體團ヲ鍛鍊シテ其體力ヲ増進スルハ國家ノ活力ヲ養フノ要素タリ心身共ニ堅實ナル素質ヲ大成セシメ平時並ニ有事ノ秋ニ處シテ其本分ヲ盡スニ於テ遺憾ナカラシメンコトヲ要ス

一、青年ノ修養ハ各自ノ自覺ヲ以テ本トス而モ之カ指導ノ任ニ當ルモノ並ニ其之ガ中心タル者ノ力ニ待ツ所殊ニ大ナルモノアルヲ以テ適切ナル方法ニ依リ之カ善導ト養成トニ勉メンコトヲ要ス

一、青年團體ノ指導方法ニ關シ先進者ノ所見時ニ牴牾矛盾ニ涉リ之カ實行ニ際シテ爲ニ阻碍ヲ見ルコトナキニアラス故ニ能ク其間ニ聯絡ヲ圖リ其果ヲ成シ實ヲ收ムルニ於テ遺憾ナカラシムコトヲ要ス

方今内外ノ情勢ヲ稽フルニ根柢アリ活力アル青年團體ハ帝國ノ殊ニ要求シテ已マサル所ナリ地方當局者ハ深ク此ニ顧ミ今後一段ノ精采ヲ加ヘテ之カ啓發策進ニ努力シ各團體ヲシテ其目標ヲ齊シウシ其步調ヲ一ニシ相互ニ督勵シテ能ク其形体實質共ニ一貫セル鍛成ノ美ヲ濟サシムヘシ

其 四

青年團ノ設置ニ關スル標準

(內務文部兩省次官ヨリ地方長官ニ對スル通牒ノ抜萃)

一、青年團ノ組織

青年團體ハ市町村內ニ於ケル義務教育ヲ了ヘタルモノ若クハ同年齡以上ノ力ヲ以テ組織シ其最高年齡ハ二十年ヲ常例スルコト

二、青年團體ノ設置區域

青年團體ハ市町村ヲ區域トシテ組織ス但シ土地ノ狀況ニ依リ部落又ハ小學校通學區域等ヲ區域トシテ組織シ若クハ支部ヲ置クコトヲ得ルコト

三、青年團體ノ指導者援助者

青年團體ノ指導者ニハ小學校長又ハ市町村長其他名望アルモノノ中ニ就キ最モ適當ト認ムル者ヲシテ之ニ當ラシメ市町村吏員、學校職員、警察官、在郷軍人、神職、僧侶其他篤志者中適當ト認ムルモノヲシテ協力指導ノ任ニ當ラシムルコト

四、青年團體ノ維持

青年團體ニ要スル經費ハ努メテ團體員ノ勤勞ニ依ル收入ヲ以テ支辨スルコト

其 五

在郷軍人會ト青年團ノ關係

一、兵制及ビ教育ノ基礎ヲ鞏固ナラシムルニハ在郷軍人會ト青年團トノ緊密ナル提携ヲ要ス是レ軍隊內務書ニモ軍隊教育ト國民教育トノ一致軍隊ト地方トノ連絡ニ就テ規定セラレアル所以ナリ

二、青年團ノ優良ナル地方ハ又在郷軍人會ノ發達極メテ穩健ナルノ實績ニ鑑ミ且ツ二者盛衰相一致スルノ理ヲ思ヒ互ニ扶掖シ國運ノ發達ニ貢獻シ國家富強ノ基ヲ固クセサルヘカラス

三、青年ハ國家ノ將來ヲ負擔スヘキ者ニシテ更ニ軍人ノ前身者タルヘキモノタリ從テ青年素質ノ良否ハ國運ノ將來ニ至大ナル關係ヲ有スルハ勿論直ニ軍隊能力ノ増進ニ影響ヲ及ボスヤ多以ナリ

辯ヲ要セス特ニ質實剛健ニシテ協同ノ觀念ニ富ミ困苦缺乏ニ堪ヘ勤勉ニシテ規律アリ秩序ヲ重ニスルノ美風ヲ涵養スルハ目今ノ急務ナリトス而シテ青年ヲシテ斯カル氣風ニ善導スルハ在郷軍人ノ努力ニ待ツコト至大ナリトス

## 第二章 日本赤十字社

### 其 一 日本赤十字社ノ創立及其來歴

本社ハ明治十年鹿兒嶋ノ役ニ際シ博愛社ノ名ヲ以テ創立セラレシモノニシテ此役ハ同年二月ニ起リ九月ニ終ハリ其間戰爭ノ激烈ナル兩軍ノ死傷夥シク悲惨ノ狀見ルニ忍ビザルモノアリ時ノ元老院議員佐野常民、大給恒ノ兩氏戰地ニ於ケル彼我ノ傷者、病者ヲ救護セン事ヲ企圖シ同志ノ士ト相計リテ一社ヲ結成シ博愛社ト稱シ同年五月一日社則ヲ具シテ熊本征討總督宮ニ稟請シ允許ヲ得テ直ニ救護員ヲ戰地ニ派遣シ官賊ノ別ナク傷病者ノ救護ニ從事セシム鹿兒嶋ノ役鎮定スルト共ニ本社ヲ永久ノモノトナシ社員ヲ全國ニ募リ資金ヲ集メ漸次社業ノ擴張ヲ圖リ明治十九年我政府ノ「ヂュネーヴ」赤十字條約ニ加盟セシヲ機トシ本社亦歐洲各國赤十字社ト同盟シ翌二十年五月社則ヲ改正シ社名ヲ日本赤十字社ト改稱シ皇室ノ保護ノ下ニ宮内及陸海軍三大臣ノ監督ヲ受クルコトトナリ其後民法ノ規定ニ從ヒ社團法人トナシ同三十四年十二月ヨリ之ヲ實施スルコト、ナリタリ

### 其 二 日本赤十字社ノ定款摘要

#### 第二條 本社ハ

##### 天皇陛下

皇后陛下ノ至貴至高ナル保護ヲ受ク

第三條 本社ハ皇族ヲ推戴シテ總裁トス

第四條 本社ハ西曆千八百六十三年十月瑞西國ヂュネーヴ府ニ開設セル萬國會議ノ議決及赤十字事業ニ關シテ帝國政府ノ締盟ニ係ル國際條約ノ主義ニ從フ

第五條 本社ノ記章ヲ白地赤十字トス

第八條 本社ハ戰時傷者病者ヲ救護スルヲ目的トス

前項主タル目的ノ外天災事變其ノ他必要ノ場合ニ於テ傷者病者ヲ救護シ又ハ救助金ヲ募集スルコトアルヘシ

第九條 本社ハ前條ノ目的ヲ達スル爲左ノ事業ヲ行フ

一、平時ニ在リテハ救護ニ必要ナル人員ヲ養成シ物品材料ヲ蒐集シ戰時又ハ天災事變ノ急ニ應スルニ足ルヘキ準備ヲ爲スコト

二、戰時ニ在リテハ當該官廳ノ命令ニ從ヒ傷者病者ノ救護ニ從事スルコト

三、天災事變ノ際ニ在リテハ當該官廳ノ委囑ニ應シ若ハ其ノ認可ヲ得テ傷者病者ノ救護ニ從事スルコト

本社ハ前記事業ノ經營ニ必要ナル機關トシテ病院ヲ設立ス

第十二條 本社ノ資産左ノ如シ

一、本社ノ所有ニ屬スル動産不動産

- 二、帝室ノ恩賜金
  - 三、社員ノ年釀金、有志者ノ寄附又ハ遺贈ニ係ル金錢物品
  - 四、本社ノ財産ヨリ生スル收益及雜收入
- 第十四條 本社ノ社員ハ左ノ三種トス

一、正社員

正社員ハ年釀金三圓以上ヲ納ムル者トス年釀金ハ十箇年ヲ一期トス一期ヲ完了シタル者及一時金二十五圓以上ヲ納メタル者ハ終身社員トス

二、特別社員

特別社員ハ本社ノ事業又ハ社資ヲ幫助シタルノ功ヲ以テ常議會ノ議決ニ因リ推薦シタルモノトス

三、名譽社員

名譽社員ハ常議員ノ議決ニ因リ推薦シタル者トス

其 三

第二條 有功章ハ社事ニ功アル者ニ附與シ社員章ハ三種ニ分チ第一種ハ名譽社員ニ第二種ハ特別社員ニ第三種ハ正社員ニ附與ス

第八條 有功章及社員章ハ男女共ニ左肋ニ佩ルモノトス我國勳章記章褒章ヲ有スル者ハ其後ニ列佩スヘシ

外國勳章並ニ其政府ヨリ出ス記章ヲ有スル者ハ其勳章記章ノ後ニ列佩ヘシ但有功章社員章ハ併佩スヘシ併佩スルトキハ有功章ヲ前ニシ社員章ヲ後ニスルモノトス

第九條 有功章社員章ヲ佩用スルハ本人ノ終身ニ止リ子孫ニ及ホスコトヲ許サス又退社シタルトキハ社員章ヲ本社ヘ返納スヘシ

第九條 有功章社員章ヲ佩用スルハ本人ノ終身ニ止リ子孫ニ及ホスコトヲ許サス又退社シタルトキハ社員章ヲ本社ヘ返納スヘシ

其 四 同上有功章社員章佩用者心得

一、有功章社員章ハ明治廿一年六月廿一日宮内省ノ批准ヲ經タル條例第五條ニ明文アルヲ以テ何レノ公會ヲ問ハス佩用スルコトヲ得ヘシ

一、宮中又ハ官衙内ニ於テ佩用スルコトヲ得ヘシ

一、大禮服、通常禮服ノ節佩フルモノトス

但「フロックコート」ヲ以テ禮服ニ代用シ得ルトキモ佩フルヲ得ヘシ

一、本社會同等ノ節ハ男子ハ羽織袴女子ハ紋付着用ト雖佩フルコト勝手タルヘシ

但神官僧侶等ハ右ニ準ズル服着用ノ節佩フルコト勝手タルヘシ

一、有功章社員章ヲ遺失若クハ紛失シ又盜、火難ニ罹リタルトキハ本社ヘ届出テ再受スルコトヲ得ヘシ

但原價ヲ辨償スルモノトス尤不可避ノ災厄ニ因リテ亡失シ事實明確ナルモノハ特ニ詮議スルコトアルヘシ

一、退社員ニシテ前條ノ事故ニ由リ社員章ヲ返納シ能ハサルトキモ亦前條但書ニ同ジ

一、有功章及社員章ノ略綬ハ通常服「フロックコート」ノ左襟見返ノ釦孔ニ掛ケ佩フヘシ

一、男子ハ羽織袴女子ハ白襟紋付着用ノ節略綬ヲ佩フルモ妨ケナシ

其 五 同社員心得

- 一、年釀金ハ毎年一月五月九月ノ三期ニ分チ出金スルモノトス但都合ニ依リ一回ニ出金シ若ハ中途ニ於テ殘額ヲ一時ニ出金スルモ妨ケナシ此場合ニ於テハ其ノ六分ノ一ヲ減額ス
  - 一、新ニ加盟セシ社員ノ其年度ニ於ケル出金ハ左ノ區分ニ依ル
    - 一月ヨリ四月迄ニ加盟ノ者 第一期分ヨリ
    - 五月ヨリ八月迄同 第二期分ヨリ
    - 九月ヨリ十二月迄同 第三期分ヨリ
  - 一、轉居ノ場合ハ其地名番地ヲ詳記シ舊住地ノ所管部ニ通報スヘシ
  - 一、氏名變換其他身上ノ異動ハ其都度所管部ニ通報スヘシ
  - 一、正社員ヨリ特別社員ニ資格變換ノ場合ニハ正社員章ハ所管部ヲ經テ返納スヘシ
- 大正六年十二月末現在社員總數ハ百七十九万八千八百三十五人内名譽社員四十七人(有功章三十七人)特別社員二万七千五百四十八人(有功章二千四百三人)正社員百七十六万五千七百七十七人贊助員五千五百廿三人

### 第三章 愛國婦人會

#### 其一 愛國婦人會ノ創立其來歴

明治三十三年北清事變ニ當リ在清軍隊ノ勞苦及ビ戰場ノ慘憺タル狀況ヲ目撃シ此等軍人戰死者ノ遺族及ビ廢兵ノ窮困者ヲ慰藉センガ爲メ故奥村五百子(肥前唐津ノ人)ノ起チテ各宮家ニ歎願シ有力者間ヲ勸誘シタル結果翌三十四年二月永久ノ事業トシテ本會ヲ創立スルニ至レリ爾來施

行セル主ナル事業ハ戰死軍人ノ遺族及ビ廢兵ノ窮困者ヲ救護スルニ在リテ此救護ニ支出セシ金額ハ本會創立以來大正五年末迄ノ累計金百八十六万九千八百六十五圓十八錢九厘其他ハ軍人軍屬ノ奇禍ニ遭遇セル者ノ弔慰、出征軍人並ニ其家族ノ慰藉、戰死軍人及ビ廢兵ノ子弟教養、出征凱旋軍人ノ歡迎送等ニシテ軍人ニ後顧ノ憂ナカラシメ士氣ノ鼓舞ニ貢獻シタル所尠カラズ大正六年定款ヲ改正シテ一般的救濟事業ヲ行フニ至レリ

大正二年十一月四日 皇后陛下ヨリ同年以降十一年マデ十箇年間毎年補助金二千五百圓ヲ下賜セラルル旨ノ御沙汰ヲ受ク而シテ各府縣ニ支部ヲ置キ地方長官夫人ヲ以テ支部長ニ囑託シ大正六年末ニ於ケル會員ハ實ニ九十五万人ヲ算セリ

#### 其二 愛國婦人會ノ主旨書

人誰カ生ヲ願ヒ死ヲ厭ハザランヤ左レド我帝國軍人ガ生ヲ忘レテ死ヲ見ルコトサナガラ鴻毛ノ如ク時トシテハ炎天ニ馳セ時トシテハ氷床ニ眠リ或ハ命ヲ硝烟ニ化シ或ハ身ヲ魚腹ニ葬ランモ露バカリ恐レザル所以ノモノハ他ナシ忠君愛國ノ熱情禁ズル能ハザルニヨルナリ故ニ今日國光ヲ宇内ニ發揚シ國家ヲ富岳ノ安ニ居ラシムルヲ得ルハ全ク大君ノ御稜威ニ由ルト雖又軍人ニ待ツコト多シト言ハザルベカラズ然ルニ是等戰死者ノ遺族中ニハ頭ニ雪ヲ戴キテ寒サニ凍ユル老人アリ赤子ヲ懷ニシテ飢ニ泣ク妻女アリ或ハ敵彈ノ爲メ不具者トナリ廢兵ノ末路ヲ歎ズル等悲慘ノ極ニ陷ルモノ擧ゲテ數フベカラズ素ヨリ斯ル境遇ニアルモノヲ救護スベキ公ノ制度ハ既ニ存スト雖猶遺憾ノ點ナキニアラズアハレ血アリ涙アルモノイカデ之ヲ傍觀スルニ忍ビンヤマコトヤ我等婦人ハ自ラ銃ヲ負ヒ劍ヲ提ゲテ千軍萬馬ノ間ニ奔走スベキモノニアラザレバセメテハ

同情ノ涙ヲ濺ギテ慈善ノ業ヲ營ミ一ハ出征軍人ヲシテ後顧ノ憂ナク以テ眞ニ國家ノ干城タラシ  
メ一ハ一般國民ヲシテ尙武ノ氣ヲ養ヒ以テ固ク護國ノ基礎タラシメンコトヲ欲ス由リテ我等ハ  
曩ニ愛國婦人會ヲ起シケルガ畏クモ

天皇皇后兩陛下皇太子、妃兩殿下本會ノ趣旨ヲ愛デサセ給ヒ優渥ナル思召ヲ以テ恩賜ノ金ヲ辱  
フス本會ノ光榮ナドカ之ニ若カン加之本會ハ又閑院宮妃殿下ヲ總裁ニ各宮殿下ヲ名譽會員ニ戴  
クコトヲ得又天下ノ婦人イカデカ感奮興起セザランヤイデヤ數多ノ姉妹タチ我等ノ微衷ヲ賢察  
シテ僅ニ「半襟一掛」ノ費ヲ節約セラレテ以テ本會會員トナリ愈々敷島ノ大和婦人タル本分ヲ  
全フセラレンコトヲ希望シテ已マザルナリ

明治三十七年九月

其 三 愛國婦人會定款摘要

第一條 本會ハ皇族ヲ推戴シテ總裁トス

第四條 本會ハ戰死並ニ準戰死者ノ遺族及ビ廢兵ヲ救護スルヲ目的トス  
救護ニ關スル方法程度ハ主務官廳ノ認可ヲ受ケ別ニ之ヲ定ム

第十條 本會ノ會員ハ婦人ニシテ左ノ三種トス

- 一、名譽會員
- 皇族ヲ推戴ス

二、特別會員

十ヶ年間毎年金二圓宛納ムルカ又ハ一時金十五圓ヲ納ムル者

三、通常會員

十ヶ年間毎年金一圓宛納ムルカ又ハ一時金七圓ヲ納ムル者

第十一條 右ノ外男女ニ拘ハラズ一時金七圓以上ヲ納ムル者ハ贊助員トス

第二十六條 本會ノ爲メ特ニ功績アル者及金品ヲ寄附シタルモノニハ男女ヲ論ゼズ有功章又ハ  
謝狀ヲ贈與ス

第二十七條 特別會員通常會員ニハ各所定ノ會員章ヲ贈與シ贊助員ニハ贊助章ヲ贈與ス  
特別會員及通常會員ニハ協約狀ヲ贊助員ニハ贊助證ヲ贈與ス

第四章 帝國軍人後援會

其 一 帝國軍人後援會ノ趣旨 (本會ハ明治二十九年一月創立)

軍人ヲシテ後顧ノ憂ナカラシムルハ即チ其武勇ヲ發揮セシムル所以ナリ最近戰役ニ於テ軍人ニ  
對スル國民ノ後援ハ極メテ盛ニシテ其戰勝ニ寄與セルコト偉大ナリシト雖モ平和克復ト共ニ此  
熱情ハ漸次冷却シ去リテ往々後援事業ヲ以テ特ニ戰時ニ限レル事ノ如ク思惟スル者アルニ至レ  
ルハ頗ル遺憾ナリト謂ツヘシ彼ノ獎兵の團體ノ如キ所在尙之ナキニアラスト雖規模概ネ狭少ニ  
シテ施設亦區々統一セス然ルニ今ヤ二大戰役ノ後ヲ承ケ軍人遺族及廢兵中生活困難ナルモノ其  
數少カラス加之近時募集壯丁ノ増加ト共ニ現役兵ノ家族ニシテ法規上服務ヲ免除セラルルニ至  
ラサルモ相當ノ救護ヲ要スル者亦多カラストセス若シ是等ニ對シテ適當ノ救護ト慰安トヲ得セ  
シメサルニ於テハ將來國民ノ獻身的精神ヲ銷磨シテ遂ニ兵役忌避ノ弊風ヲ誘致シ必任義務兵役

ノ實ナキニ至ラム左レハ統一セル機關ヲ設備シテ常ニ軍人ニ後顧ノ念ナカラシメ且國民ノ尙武思想ヲ涵養シ以テ國民皆兵ノ精神ヲ現實ニセムコトハ刻下ノ最大急務ナリトス而シテ本會ノ事業タルヤ赤十字社ノ世界的事業ナルニ對シテ國家的事業ナリト云フコトヲ得ヘク彼ノ在郷軍人會トハ其ノ目的及事業ニ於テ相互關聯スル所アルヲ以テ今後同會ト提携シ各其ノ本務ヲ並ヒ行ヒテ茲ニ始メテ大ニ其効果ノ發揚ヲ期シ得ヘシ是レ本會趣旨ノ梗概ナリトス

明治四十五年一月二十五日

其二 同上目的及事業

本會ハ帝國軍人ノ後援トナリ軍人ヲシテ後顧ノ憂ナカラシメ且尙武思想ヲ涵養スルヲ以テ目的トス此目的ヲ達スル爲メ左ノ事項ヲ執行ス

(イ)左記事項該當ノ救護慰藉

- 一、戰死又ハ公務ニ基因スル傷病死軍人ノ遺族ニシテ生活困難ナル者
  - 二、軍人ニシテ公務ノ爲メ傷痍ヲ受ケ或ハ疾病ニ罹リテ不具廢人トナリシ者又ハ其家族ニシテ生活困難ナル者
  - 三、現役若シクハ應召者ノ家族ニシテ生活困難トナリシ者
  - 四、軍人ニシテ天災地變等ノ爲メ不幸災厄ニ罹リ生活困難トナリシ者
- (ロ)軍事思想ノ獎勵普及ヲ圖リ以テ國民皆兵ノ實現ヲ助成ス

其三 同上會員ノ成立

本會ノ會員ハ名譽會員、有功會員、特別會員、通常會員、贊助會員ノ五種トス

- 一、名譽會員ハ評議員會ノ議決ヲ以テ名譽會員ニ推薦セラレタル者
- 二、有功會員ハ金五百圓以上ノ醵金ヲ負擔シ十箇年以内ニ其負擔額ノ十分ノ一以上ヲ毎年醵出スルカ又ハ一時ニ金四百圓以上ヲ醵出スル者及本會ノ爲メ特殊ノ功勞アルモノニシテ評議員會ノ議決ニ依リ特ニ醵金セズシテ有功會員ニ推薦セラレタル者
- 三、特別會員ハ金五十圓以上ノ醵金ヲ負擔シ十箇年以内ニ其負擔額ノ十分ノ一以上ヲ毎年醵出スルカ又ハ一時ニ金四十圓以上ヲ醵出スル者及本會ニ功勞アルモノニシテ評議員會ノ議決ニ依リ特ニ醵金ヲ要セスシテ特別會員ニ推薦セラレタル者
- 四、通常會員ハ金三十圓以上ノ醵金ヲ負擔シ十箇年以内ニ其負擔額ノ十分ノ一以上ヲ毎年醵出スルカ又ハ一時ニ金二十五圓ヲ醵出スル者
- 五、贊助會員ハ金一圓以上ヲ十箇年以上毎年醵出スルカ又ハ一時ニ金五圓以上ヲ醵出スル者
- 六、第三項乃至第五項ノ會員ニシテ其醵出金上級會員ノ負擔額ニ達シタルトキハ相當會員ニ進級ス
- 七、金品ヲ一時又ハ追年醵出スル者ハ寄贈者トス

## 第六編 都市區町村制摘要

### 第一章 郡制摘要

- 第一 郡長(北海道ニテハ支廳長以下同ジ)ハ奏任官ニシテ知事(北海道ニテハ道長官以下同ジ)ノ指揮監督ヲ受ケ法律命令ヲ部内ニ執行シ部内ノ行政事務ヲ掌リ部下ノ官吏ヲ指揮監督スルモノトス
- 第二 郡長ハ行政事務ニ就テハ其部内町村長ヲ指揮監督スルモノトス
- 第三 郡長ハ町村長ノ處分セシ事ニシテ成規ニ違反シ公益ヲ害シ又ハ權限ヲ犯スモノアルヲ認メタルトキハ其處分ヲ取消シ又ハ停止スルコトヲ得
- 第四、郡長ハ部下ノ判任官ノ進退ヲ知事ニ具申スルコトヲ得
- 第五 郡長ハ法律命令ニ依リ又ハ知事ヨリ委任セラレタル事件ニ就キ郡令ヲ發スルコトヲ得

### 第二章 市(區)制摘要

- 第二條 市ハ法人トス官ノ監督ヲ承ケ法令ノ範圍内ニ於テ其ノ公共事務並從來法令又ハ慣例ニ依リ將來法律勅令ニ依リ市ニ屬スル事務ヲ處理ス
- 第六條 勅令ヲ以テ指定スル市ノ區ハ之ヲ法人トス其ノ財産及營造物ニ關スル事務其ノ他法令ニ依リ區ニ屬スル事務ヲ處理ス

第八條 市内ニ住所ヲ有スル者ハ其ノ市住民トス

市住民ハ本法ニ從ヒ市ノ財産及營造物ヲ共用スル權利ヲ有シ市ノ負擔ヲ分任スル義務ヲ負フ

第九條 帝國臣民ニシテ獨立ノ生計ヲ營ム年齡二十五年以上ノ男子二年以來市ノ住民ト爲リ其ノ市ノ負擔ヲ分任シ且其ノ市内ニ於テ地租ヲ納メ若ハ直接國稅年額二圓以上ヲ納ムルトキハ其ノ市公民トス但シ貧困ノ爲公費ノ救助ヲ受ケタル後二年ヲ經サル者、禁治產者準禁治產者及六年ノ懲役又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタ者ルハ此ノ限ニ在ラス

市ハ前項二年ノ制限ヲ特免スルコトヲ得

家督相續ニ依リ財産ヲ取得シタル者ニ付テハ其ノ財産ニ付被相續人ノ爲シタル納稅ヲ以テ其ノ者ノ納稅シタルモノト看做ス

市公民ノ要件中其ノ年限ニ關スルモノハ市町村ノ廢置分合又ハ境界變更ノ爲中斷セララルコトナシ

市稅ヲ賦課セサル市ニ於テハ市公民ノ要件中市ノ負擔分任ニ關スル規定ヲ適用セス

第十條 市公民ハ市ノ選舉ニ參與シ市ノ名譽職ニ選舉セララル權利ヲ有シ市ノ名譽職ヲ擔任スル義務ヲ負フ

左ノ各號ノ一ニ該當セサル者ニシテ名譽職ノ當選ヲ辭シ又ハ其ノ職ヲ辭シ若ハ其ノ職務ヲ實際ニ執行セサルトキハ市ハ一年以上四年以下其ノ市公民權ヲ停止シ場合ニ依リ其ノ停止年間に其ノ者ノ負擔スヘキ市稅ノ十分ノ一以上ヲ贈課スルコトヲ得

一、疾病ニ罹リ公務ニ堪ヘサル者



二、業務ノ爲常ニ市内ニ居ルコトヲ得サル者  
三、年齢六十年以上ノ者

四、官公職ノ爲市ノ公務ヲ執ルコトヲ得サル者

五、四年以上名譽職市吏員、名譽職參事會員、市會議員又ハ區會議員ノ職ニ任シ爾後同一ノ期間ヲ經過セサル者

六、其ノ他市會ノ議決ニ依リ正當ノ理由アリト認ムル者

前項ノ處分ヲ受ケタル者其ノ處分ニ不服アルトキハ府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第二項ノ處分ハ其ノ確定ニ至ル迄執行ヲ停止ス

第三項ノ裁決ニ付テハ府縣知事又ハ市長ヨリ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第十一條 市公民第九條第一項ニ掲ケタル要件ノ一ヲ闕キ又ハ同項但書ニ當ルニ至リタルトキハ其公民權ヲ失フ

市公民租稅滯納處分中ハ其ノ公民權ヲ停止ス家資散分若ハ破産ノ宣告ヲ受ケ其ノ確定シタルトキヨリ復權ノ決定確定スルニ至ル迄又ハ禁錮以上ノ刑ノ宣告ヲ受ケタルトキヨリ其ノ執行ヲ終リ若ハ其ノ執行ヲ受クルコトナキニ至ル迄亦同シ

陸海軍ノ現役ニ服スル者ハ市ノ公務ニ參與スルコトヲ得ス其ノ他ノ兵役ニ在ル者ニシテ戰時又ハ事變ニ際シ召集セラレタルトキ亦同シ

第十三條 市會議員ハ被選舉權アル者ニ就キ選舉人之ヲ選舉ス

議員ノ定數左ノ如シ

- 一、人口五万未満ノ市 三十人
  - 二、人口五万以上十五万未満ノ市 三十六人
  - 三、人口十五万以上二十万未満ノ市 三十九人
  - 四、人口二十万以上三十万未満ノ市 四十二人
  - 五、人口三十万以上ノ市 四十五人
- 人口三十万ヲ超ユル市ニ於テハ人口十万人人口五十万ヲ超ユル市ニ於テハ人口二十万ヲ加フル毎ニ議員三人ヲ増加ス

議員ノ定數ハ市條例ヲ以テ特ニ之ヲ増減スルコトヲ得  
議員ノ定數ハ總選舉ヲ行フ場合ニ非サレハ之ヲ増減セス

但シ著シク人口ノ増減アリタル場合ニ於テ内務大臣ノ許可ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス  
第十四條 市公民ハ總テ選舉權ヲ有ス但シ公民權停止中ノ者又ハ第十一條第三項ノ場合ニ當ル者ハ此ノ限ニ在ラス

帝國臣民ニシテ直接市稅ヲ納ムル者其ノ額市公民ノ最多ク納稅スル者三人中ノ一人ヨリモ多キトキハ第九條第一項ノ要件ニ當ラスト雖選舉權ヲ有ス但シ六年ノ懲役又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者及第十一條第二項ノ公民權停止ノ條件又ハ同條第三項ノ場合ニ當ル者ハ此ノ限ニ在ラス  
法人ニ關シテモ亦前項ノ例ニ依ル

直接市税ヲ賦課セサル市ニ於テハ其ノ市内ニ於テ納ムル直接國稅額ニ依リ前二項ノ規定ヲ適用ス

前三項ノ直接市税及直接國稅ノ納額ハ選舉納名簿調製期日ノ屬スル會計年度ノ前年度ノ賦課額ニ依ルヘシ

第十五條 選舉ハ分チテ三級トス

選舉人中直接市税ノ納額最多キ者ヲ合セテ選舉人全員ノ納ムル總額ノ三分ノ一ニ當ルヘキ者ヲ一級トス但シ一級選舉人ノ數議員定數ノ三分ノ一ヨリ少キトキハ納額最多キ者議員定數ノ三分ノ一ト同數ヲ以テ一級トス

一級選舉人ヲ除クノ外直接市税ノ納額最多キ者ヲ合セテ選舉人全員ノ納ムル直接市税ノ總額中一級選舉人ノ納ムル額ヲ除キ其ノ殘額ノ半ニ當ルヘキ者ヲ二級トシ其ノ他ノ選舉人ヲ三級トス但シ二級選舉人ノ場合ニハ前項但書ノ規定ヲ準用ス

各級ノ間納稅額兩數ニ跨ル者アルトキハ上級ニ入ルヘシ  
兩級ノ間ニ同額ノ納稅者二人以上アルトキハ其ノ市内ニ住所ヲ有スル年數ノ多キ者ヲ以テ上級ニ入ル住所ヲ有スル年數同シキトキハ年長者ヲ以テシ年齡ニ依リ難キトキハ市長抽籤シテ之ヲ定ムヘシ

選舉人ハ每級各別ニ議員定數ノ三分ノ一ヲ選舉ス但シ選舉區アル場合ニ於テ議員ノ數三分シ難キトキハ其ノ配當方法ハ第十六條ノ市條例中ニ之ヲ規定スヘシ  
被選舉人ハ各級ニ通シテ選舉セララルコトヲ得

直接市税ヲ賦課セサル市ニ於テハ第二項乃至第四項ノ稅納額ハ選舉人ノ市内ニ於テ納ムル直接國稅額ニ依ルヘシ

第二項乃至第四項及前項ノ直接市税及直接國稅ノ納額ニ關シテハ前條第五項ノ規定ヲ適用ス

第十六條 市ハ市條例ヲ以テ選舉區ヲ設クルコトヲ得二級又ハ三級選舉ノ爲ノミニ付亦同ジ

選舉區ノ數及其ノ區域並各選舉區ヨリ選出スル議員數ハ前項ノ市條例中ニ之ヲ規定スヘシ

第六條ノ市ニ於テハ區ヲ以テ選舉區トス其ノ各選舉區ヨリ選出スル議員數ハ市條例ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

選舉人ハ住所ニ依リ所屬ノ選舉區ヲ定ム市内ニ住所ナキ者ハ直接市税若ハ直接國稅ノ賦課ヲ受ケタル物件又ハ營業所ノ所在ニ依リ物件又ハ營業所ニシテ數選舉區ニ在ル場合ニハ之ニ對スル課稅ノ最モ多キ所ニ依リ其ノ之ニ依リ難キ場合ニハ本人ノ申出ニ依リ其ノ申出ナキトキハ市長其ノ選舉區ヲ定ムヘシ

選舉區ニ於テハ前條ノ規定ニ準シ選舉人ノ等級ヲ分ツヘシ但シ一級選舉人ノ數其ノ選出スヘキ議員配當數ヨリ少ナキトキハ納額最多キ者議員配當數ト同數ヲ以テ一級トス  
二級選舉人ニ付亦同シ

被選舉人ハ各選舉區ニ通シテ選舉セララルコトヲ得

第十七條 特別ノ事情アルトキハ市ハ府縣知事ノ許可ヲ得區劃ヲ定メテ選舉分會ヲ設クルコトヲ得二級又ハ三級選舉ノ爲ノミニ付亦同シ

第十八條 選舉權ヲ有スル市公民ハ被選舉權ヲ有ス

左ニ掲クル者ハ被選舉權ヲ有セス其ノ之ヲ罷メタル後一月ヲ經過セサル者亦同ジ

一、所屬府縣ノ官吏及有給吏員

二、其ノ市ノ有給吏員

三、檢事警察官吏及收稅官吏

四、神官神職僧侶其ノ他諸宗教師

五、小學校教員

市ニ對シ請負ヲ爲ス者及其ノ支配人又ハ主トシテ同一ノ行爲ヲ爲ス法人ノ無限責任社員、重役及支配人ハ其ノ市ニ於テ被選舉權ヲ有セス

父子兄弟タル緣故アルモノハ同時ニ市會議員ノ職ニ在ルコトヲ得ス其ノ同時ニ選舉セラレタルトキハ同級ニ在リテハ得票ノ數ニ依リ其ノ多キ者一人ヲ當選者トシ同數ナルトキ又ハ等級

若ハ選舉區ヲ異ニシテ選舉セラレタルトキハ年長者ヲ當選者トス其ノ時ヲ異ニシテ選舉セラレタルトキハ後ニ選舉セラレタル者議員タルコトヲ得ス

議員ト爲リタル後前項ノ緣故ヲ生シタル場合ニ於テハ年少者其ノ職ヲ失フ

市長參與又ハ助役ト父子兄弟タル緣故アル者ハ市會議員ノ職ニ在ルコトヲ得ス

第十九條 市會議員ハ名譽職トス

議員ノ任期ハ四年トシ總選舉ノ第一日ヨリ之ヲ起算ス(以下省略ス)

第二十一條第二項

市長ハ選舉期日前四十日ヲ期トシ其ノ日ヨリ七日間毎日午前八時ヨリ午後四時迄市役所第六條ノ市ニ於テハ區役所又ハ告示シタル場所ニ於テ選舉人名簿ヲ關係者縱覽ニ供スヘシ關係者ニ於テ異議アルトキハ縱覽期間内ニ之ヲ市長第六條ノ市ニ於テハ區長ヲ經テニ申出ツルコトヲ得此ノ場合ニ

於テハ市長ハ縱覽期間滿了後三日間以内ニ市會ノ決定ニ付スヘシ市會ハ其ノ送付ヲ受ケタル日ヨリ七日以内ニ決定スヘシ

第四十一條 市會ハ市ニ關スル事件及法律勅令ニ依リ其ノ權限ニ屬スル事件ヲ議決ス

第四十二條 市會ノ議決スヘキ事件ノ概目左ノ如シ

一、市條例及市規則ヲ設ケ又ハ改廢スルコト

二、市費ニ於テ支辨スヘキ事業ニ關スル事但シ第九十三條ノ事務及法律勅令ニ規定アルモノハ此ノ限リニ在ラス(參照第九十三條市長其ノ他市吏員ハ法令ノ定ムル所ニ依リ國府縣其

ノ他公共團體ノ事務ヲ掌ル)

三、歲入出豫算ヲ定ムル事

四、決算報告ヲ認定スル事

五、法令ニ定ムルモノヲ除クノ外使用料、手数料、加入金、市稅又ハ夫役錢品ノ賦課徵收ニ關スル事

六、不動産ノ管理處分及取得ニ關スル事

七、基本財産及積立金穀等ノ設置管理及處分ニ關スル事

八、歲入出豫算ヲ以テ定ムルモノヲ除クノ外新ニ義務ノ負擔ヲ爲シ及權利ノ拋棄ヲ爲ス事

九、財産及營造物ノ管理方法ヲ定ムル事但シ法律勅令ニ規定アルモノハ此ノ限ニ在ラス  
 十、市吏員ノ身元保證ニ關スル事  
 十一、市ニ係ル訴願訴訟及和解ニ關スル事

第六十四條 市ニ市參事會ヲ置キ左ノ職員ヲ以テ之ヲ組織ス

- 一、市長
- 二、助役
- 三、名譽職參事會員

前項ノ外市參與ヲ置ク市ニ於テハ市參與ハ參事會員トシテ其ノ擔任事業ニ關スル場合ニ限リ會議ニ列席シ議事ニ參與ス

第六十七條 市參事會ノ職務權限左ノ如シ

- 一、市會ノ權限ニ屬スル事件ニシテ其ノ委任ヲ受ケタルモノヲ議決スル事
- 二、市長ヨリ市會ニ提出スル議案ニ付市長ニ對シ意見ヲ述フル事
- 三、其ノ他法令ニ依リ市參事會ノ權限ニ屬スル事件

第七十二條 市ニ市長及助役一人ヲ置ク但シ第六條ノ市ノ助役ノ定數ハ內務大臣之ヲ定ム

助役ノ定數ハ市條例ヲ以テ之ヲ增加スルコトヲ得  
 特別ノ必要アル市ニ於テハ市條例ヲ以テ市參與ヲ置クコトヲ得其ノ定數ハ其ノ市條例中ニ之ヲ規定スヘシ

第七十四條 市參與ハ名譽職トス但シ定數ノ全部又ハ一部ヲ有給吏員ト爲スコトヲ得此ノ場合

ニ於テハ第七十二條第三項ノ市條例中ニ之ヲ規定スヘシ  
 市參與ハ市會ニ於テ之ヲ選舉シ內務大臣ノ認可ヲ受クヘシ  
 名譽職市參與ハ市民中選舉權ヲ有スル者ニ限ル

第七十五條 助役ハ有給吏員トシ其ノ任期ハ四年トス

助役ハ市長ノ推薦ニ依リ市會之ヲ定メ市長職ニ在ラサルトキハ市會ニ於テ之ヲ選舉シ府縣知事ノ認可ヲ受クヘシ

前項ノ場合ニ於テ府縣知事ノ不認可ニ對シ市長又ハ市會ニ於テ不服アルトキハ內務大臣ニ具狀シテ認可ヲ請フコトヲ得

助役ハ府縣知事ノ認可ヲ受クルニ非サレハ任期中退職スルコトヲ得ス

第七十六條 市長有給市參與及助役ハ第九條第一項ノ規定ニ拘ハラズ在職ノ間其ノ市ノ公民トス

第七十七條 市長市參與及助役ハ第十八條第二項ニ掲ケタル職ト兼ヌルコトヲ得ス又其ノ市ニ對シ請負ヲ爲スコトヲ得ス

市長ト父子兄弟タル緣故アル者ハ市參與又ハ助役ノ職ニ在ルコトヲ得ス

市參與ト父子兄弟タル緣故アル者ハ助役ノ職ニ在ルコトヲ得ス

父子兄弟タル緣故アル者ハ同時ニ市參與又ハ助役ノ職ニ在ルコトヲ得ス第十八條第五項ノ規定ハ此ノ場合ニ之ヲ準用ス

第七十八條 市長有給市參與及助役ハ府縣知事ノ許可ヲ受クルニ非サレハ其ノ報償アル業務ニ

從事スルコトヲ得ス

市長有給市參與及助役ハ會社ノ重役又ハ支配人其他ノ事務員タルコトヲ得ス

第七十九條 市ニ收入役一人ヲ置ク但シ市條例ヲ以テ副收入役ヲ置クコトヲ得

第七十五條第一項乃至第三項第七十七條第一項及第四項並前條ノ規定ハ收入役及副收入役ニ

第七十六條ノ規定ハ收入役ニ之ヲ準用ス

市長市參與又ハ助役ト父子兄弟タル緣故アル者ハ收入役又ハ副收入役ノ職ニ在ルコトヲ得ス  
收入役ト父子兄弟ノ緣故アル者ハ副收入役ノ職ニ在ルコトヲ得ス

第八十條 第六條ノ市ノ區ニ區長一人ヲ置キ市有給吏員トシ市長之ヲ任免ス

第七十七條第一項及第七十八條ノ規定ハ區長ニ之ヲ準用ス

第八十一條 第六條ノ市ノ區ニ區收入役一人又ハ區收入役及區副收入役各一人ヲ置ク

區收入役及區副收入役ハ第八十六條ノ吏員中市長、助役、市收入役、市副收入役又ハ區長トノ間ニ  
ノ間及其ノ相互ノ間ニ父子兄弟タル緣故アラサル者ニ就キ市長之ヲ命ス

區收入役又ハ區副收入役ト爲リタル後市長、助役、市收入役、市副收入役又ハ區長トノ間ニ  
父子兄弟タル緣故生シタルトキハ區收入役又ハ區副收入役ハ其ノ職ヲ失フ

前項ノ規定ハ區收入役及區副收入役相互ノ間ニ於テ區收入役ニ之ヲ準用ス

第八十二條 第六條ノ市ヲ除キ其ノ他ノ市ハ處務便宜ノ爲メ區ヲ劃シ區長及其ノ代理者一人ヲ  
置クコトヲ得  
前項ノ區長及其ノ代理者ハ名譽職トス市會ニ於テ市公民中選舉權ヲ有スル者ヨリ之ヲ選舉ス

內務大臣ハ前項ノ規定ニ拘ハラズ區長ヲ有給吏員ト爲スヘキ市ヲ指定スルコトヲ得  
(以下省略ス)

第八十三條 市ハ臨時又ハ常設ノ委員ヲ置クコトヲ得

委員ハ名譽職トス市會ニ於テ市會議員、名譽職參事會員又ハ市公民中選舉權ヲ有スル者ヨリ  
之ヲ選舉ス但シ委員長ハ市長ハ長其ノ委任ヲ受ケタル市參與若ハ助役ヲ以テ之ニ充ツ  
常設委員ノ組織ニ關シテハ市條例ヲ以テ別段ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第八十四條 市公民ニ限リテ擔任スヘキ職務ニ在ル吏員ニシテ市公民權ヲ喪失シ若ハ停止セラ  
レタルトキ又ハ第十一條第三項ノ場合ニ當ルトキハ其ノ職ヲ失フ職ニ就キタルカ爲市公民タ  
ル者ニシテ禁治産若ハ準禁治産ノ宣告ヲ受ケタルトキ又ハ第十一條第二項若ハ第三項ノ場合  
ニ當ルトキ亦同シ

前項ノ職務ニ在ル者ニシテ禁錮以上ノ刑ニ當ルヘキ罪ノ爲豫審又ハ公判ニ付セラレタルトキ  
ハ監督官廳ハ其ノ職務ノ執行ヲ停止スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ停止期間報酬又ハ給  
料ヲ支給スルコトヲ得ス

第八十五條 前數條ニ定ムル者ノ外市ニ必要ノ有給吏員ヲ置キ市長之ヲ任免ス

前項吏員ノ定數ハ市會ノ議決ヲ經テ之ヲ定ム

第八十六條 前數條ニ定ムル者ノ外第六條及第八十二條第三項ノ市ノ區ニ必要ノ市有給吏員ヲ  
置キ區長ノ申請ニ依リ市長之ヲ任免ス

前項吏員ノ定數ハ市會ノ議決ヲ經テ之ヲ定ム

第八十七條 市長ハ市ヲ統轄シ市ヲ代表ス (以下省略ス)

第九十五條 市參與ハ市長ノ指揮監督ヲ承ケ市ノ經營ニ屬スル特別ノ事業ヲ擔任ス

第九十六條 助役ハ市長ノ事務ヲ補助ス

助役ハ市長故障アルトキ之ヲ代理ス助役數人アルトキハ豫メ市長ノ定メタル順序ニ依リ之ヲ代理ス

第九十七條 收入役ハ市ノ出納其ノ他ノ會計事務及第九十三條ノ事務ニ關スル國府縣其ノ他公

共團體ノ出納其ノ他ノ會計事務ヲ掌ル但シ法令中別段ノ規定アルモノハ此ノ限ニ在ラス

副收入役ハ收入役ノ事務ヲ補助シ收入役故障アルトキ之ヲ代理ス副收入役數人アルトキハ豫

メ市長ノ定メタル順序ニ依リ之ヲ代理ス

市長ハ府縣知事ノ許可ヲ得テ收入役ノ事務ノ一部ヲ副收入役ニ分掌セシムルコトヲ得但シ市

ノ出納其ノ他ノ會計事務ニ付テハ豫メ市會ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

第六條ノ市ノ市長ハ前項ノ例ニ依リ收入役ノ事務ノ一部ヲ區收入役ニ分掌セシムルコトヲ得

副收入役ヲ置カサル場合ニ於テハ市ハ收入役故障アルトキ之ヲ代理スヘキ吏員ヲ定メ府縣知

事ノ認可ヲ受クヘシ

第九十八條 第六條ノ市ノ區長ハ市長ノ命ヲ承ケ又ハ法令ノ定ムル所ニ依リ區内ニ關スル市ノ

事務及區ノ事務ヲ掌ル

區長其ノ他區所屬ノ吏員ハ市長ノ命ヲ承ケ又ハ法令メ定ムル所ニ依リ國府縣其ノ他公共團體

ノ事務ヲ掌ル

區長故障アルトキハ區收入役及區副收入役ニ非サル區所屬ノ吏員中上席者ヨリ順次之ヲ代理ス

第一項及第二項ノ事務ヲ執行スル爲要スル費用ハ市ノ負擔トス但シ法令中別段ノ規定アルモノハ此ノ限ニ在ラス

第九十九條 第六條ノ市ノ區收入役ハ市收入役ノ命ヲ承ケ法令ノ定ムル所ニ依リ市及區ノ出納

其ノ他ノ會計事務並國府縣其ノ他公共團體ノ出納其ノ他ノ會計事務ヲ掌ル

區長ハ市長ノ許可ヲ得テ區收入役ノ事務ノ一部ヲ區副收入役ニ分掌セシムルコトヲ得但シ區

ノ出納其ノ他ノ會計事務ニ付テハ豫メ區會ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

市長ハ市ノ出納其ノ他ノ會計事務ニ付前項ノ許可ヲ爲ス場合ニ得テハ豫メ市會ノ同意ヲ得ル

コトヲ要ス

區副收入役ヲ置カサル場合ニ於テハ市長ハ區收入役故障アルトキ之ヲ代理スヘキ吏員ヲ定ム

ベシ

區收入役及區副收入役ノ職務權限ニ關シテハ前四項ニ規定スルモノノ外市收入役及市副收入

役ニ關スル規定ヲ準用ス

第百條 名譽職區長ハ市長ノ命ヲ承ケ市長ノ事務ニシテ區内ニ關スルモノヲ補助ス

名譽職區長代理者ハ區長ノ事務ヲ補助シ區長故障アルトキ之ヲ代理ス

第百一條 委員ハ市長ノ指揮監督ヲ承ケ財產又ハ營造物ヲ管理シ其ノ他委託ヲ受ケタル市ノ事

務ヲ調査シ又ハ之ヲ處辨ス

第二百二條 第八十五條ノ吏員ハ市長ノ命ヲ受ケ事務ニ從事ス

第二百三條 第八十六條ノ吏員ハ區長ノ命ヲ承ケ事務ニ從事ス

區長ハ前項ノ吏員ヲシテ其ノ事務ノ一部ヲ臨時代理セシムルコトヲ得

第二百九條 收益ノ爲ニスル市ノ財産ハ基本財産トシ之ヲ維持スヘシ

市ハ特定ノ目的ノ爲特別ノ基本財産ヲ設ケ又ハ金穀等ヲ積立ツルコトヲ得

第一百十條 舊來ノ慣行ニ依リ市住民中特ニ財産又ハ管造物ヲ使用スル權利ヲ有スル者アルトキ

ハ其ノ舊慣ニ依ル舊慣ヲ變更又ハ廢止セムトスルトキハ市會ノ議決ヲ經ヘシ

前項ノ財産又ハ管造物ヲ新ニ使用セムトスル者アルトキハ市ハ之ヲ許可スルコトヲ得

第一百一十條 市ハ前條ニ規定スル財産ノ使用方法ニ關シ市規則ヲ設クルコトヲ得

第一百五條 市ハ其ノ公益上必要アル場合ニ於テハ寄附又ハ補助ヲ爲スコトヲ得

第一百十六條 市ハ其ノ必要ナル費用及從來法令ニ依リ又ハ將來法律勅令ニ依リ市ノ負擔ニ屬ス

ル費用ヲ支辨スル義務ヲ負フ

市ハ其ノ財産ヨリ生スル收入、使用料、手数料、過料、過怠金其ノ他法令ニ依リ市ニ屬スル

收入ヲ以テ前項ノ支出ニ充テ仍不足アルトキハ市税及夫役現品ヲ賦課徵收スルコトヲ得

第十七條 市税トシテ賦課スルコトヲ得ヘキモノ左ノ如シ

一、國稅府縣稅ノ附加稅

直接國稅又ハ直接府縣稅ノ附加稅ハ均一ノ稅率ヲ以テ之ヲ徵收スヘシ但第一百六十七條ノ規

定ニ依リ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

國稅ノ附加稅タル府縣稅ニ對シテハ附加稅ヲ賦課スルコトヲ得ス

特別稅ハ別ニ稅目ヲ起シテ課稅スルノ必要アルトキ賦課徵納スルモノトス

第十八條 三月以上市内ニ滞在スル者ハ其ノ滞在ノ初ニ遡リ市税ヲ納ムル義務ヲ負フ

第十九條 市内ニ住所ヲ有セス又ハ三月以上滞在スルコトナシト雖市内ニ土地家屋物件ヲ所

有シ使用シ若ハ占有シ市内ニ營業所ヲ設ケテ營業ヲ爲シ又ハ市内ニ於テ特定ノ行爲ヲ爲ス者

ハ其ノ土地家屋物件營業若ハ其ノ收入ニ對シ又ハ其ノ行爲ニ對シテ賦課スル市税ヲ納ムル義

務ヲ負フ

第二十條 納稅者ノ市外ニ於テ所有シ使用シ占有スル土地家屋物件若ハ其ノ收入又ハ市外ニ

於テ營業所ヲ設ケタル營業若ハ其ノ收入ニ對シテハ市税ヲ賦課スルコトヲ得ス

市ノ内外ニ於テ營業所ヲ設ケ營業ヲ爲ス者ニシテ其ノ營業又ハ收入ニ對スル本税ヲ分別シテ

納メサルモノニ對シ附加稅ヲ賦課スル場合及住所滞在市ノ内外ニ渉ル者ノ收入ニシテ土地家

屋物件又ハ營業所ヲ設ケタル營業ヨリ生スル收入ニ非サルモノニ對シ市税ヲ賦課スル場合ニ

付テハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十二條 所得稅法第五條ニ掲クル所得ニ對シテハ市税ヲ賦課スルコトヲ得ス

神社寺院祠宇佛堂ノ用ニ供スル建物及其ノ境内地並教會所說教場ノ用ニ供スル建物及其ノ構

内地ニ對シテハ市税ヲ賦課スルコトヲ得ス但シ有料ニテ之ヲ使用セシムル者及住宅ヲ以テ教

會所說教場ノ用ニ充ツル者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラス

國府縣市町村其ノ他公共團體ニ於テ公用ニ供スル家屋物件及營造物ニ對シテハ市稅ヲ賦課スルコトヲ得ス但シ有料ニテ之ヲ使用セシムル者及使用收益者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラス國ノ事業又ハ行爲及國有ノ土地家屋物件ニ對シテハ國ニ市稅ヲ賦課スルコトヲ得ス前四項ノ外市稅ヲ課賦スルコトヲ得サルモノハ別ニ法律勅令ノ定ムル所ニ依ル(參照) 所得稅法第五條 左ニ掲クル所得ニハ所得稅ヲ課セス

一、軍人從軍中ニ係ル俸給

二、扶助料及傷痍疾病者ノ恩給

三、旅費學費金及法定扶養料

四、營利ヲ目的トセサル法人ノ所得

五、營利ノ事業ニ屬セサル一時ノ所得

六、外國又ハ此ノ法律ヲ施行セサル地ニ於ケル資産營業又ハ職業ニ依ル所得但シ此ノ法律施行地ニ本店ヲ有スル法人ノ所得ヲ除ク

七、此ノ法律ニ依リ所得稅ヲ課セラレタル法人ヨリ受クル配當金及割賦賞與金

第二百二十二條 數人ヲ利スル營造物ノ設置維持其ノ他ノ必要ナル費用ハ其ノ關係者ニ負擔セシムルコトヲ得

市ノ一部ヲ利スル營造物ノ設置維持其ノ他ノ必要ナル費用ハ其ノ部内ニ於テ市稅ヲ納ムル義務アル者ニ負擔セシムルコトヲ得

前二項ノ場合ニ於テ營造物ヨリ生スル收入アルトキハ先ヅ其ノ收入ヲ以テ其ノ費用ニ充ツハ

シ前項ノ場合ニ於テ其ノ一部ノ收入アルトキ亦同シ

數人又ハ市ノ一部ヲ利スル財產ニ付テハ前三項ノ例ニ依ル

第二百二十四條 數人又ハ市ノ一部ニ對シテ利益アル事件ニ關シテハ市ハ不均一ノ賦課ヲ爲シ又ハ數人若ハ市ノ一部ニ對シ賦課ヲ爲スコトヲ得

第二百二十五條 夫役又ハ現品ハ直接市稅ヲ準率ト爲シ直接市稅ヲ賦課セサル市ニ於テハ直接國稅ヲ準率ト爲シ且之ヲ金額ニ算出シテ賦課スヘシ但テ第百六十七條ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

學藝美術及手工ニ關スル勞務ニ付テハ夫役ヲ賦課スルコトヲ得ス

夫役ヲ賦課セラレタル者ハ本人自ラ之ニ當リ又ハ適當ノ代人ヲ出スコトヲ得

夫役又ハ現品ハ金錢ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

第一項及前項ノ規定ハ急迫ノ場合ニ賦課スル夫役ニ付テハ之ヲ適用セス

第三百十條 市稅ノ賦課ヲ受ケタル者其ノ賦課ニ付違法又ハ錯誤アリト認ムルトキハ徵稅令書ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ三月以内ニ市長ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得

財產又ハ營造物ヲ使用スル權利ニ關シ異議アル者ハ之ヲ市長ニ申立ツルコトヲ得  
以下省略ス

第三百十一條 市稅、使用料、手數料、加入金、過料、過怠金其ノ他ノ他ノ收入ヲ定期内ニ納メサル者アルトキハ市長ハ期限ヲ指定シテ之ヲ督促スヘシ  
夫役現品ノ賦課ヲ受ケタル者定期内ニ其ノ履行ヲ爲サス又ハ夫現品ニ代フル金錢ヲ納メサル



トキハ市長ハ期限ヲ指定シテ之ヲ督促スヘシ急迫ノ場合ニ賦課シタル夫役ニ付テハ更ニ之ヲ金額ニ算出シ期限ヲ指定シテ其ノ納付ヲ命スヘシ

前二項ノ場合ニ於テハ市條例ノ定ムル所ニ依リ手数料ヲ徵收スルコトヲ得

滞納者第一項又ハ第二項ノ督促又ハ命令ヲ受ケ其ノ指定ノ期限内ニ之ヲ完納セサルトキハ國稅滯納處分ノ例ニ依リ之ヲ處分スヘシ

以下省略ス

第四百四十六條 區會議員ハ市ノ名譽職トス (以下省略ス)

第四百六十七條 左ニ掲クル事件ハ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ

- 一、基本財産ノ管理及處分ニ關スル事
- 二、特別基本財産及積立金穀等ノ管理及處分ニ關スル事
- 三、第一百十條ノ規定ニ依リ舊慣ヲ變更又ハ廢止スル事
- 四、寄附又ハ補助ヲ爲ス事
- 五、不動産ノ管理及處分ニ關スル事
- 六、均一ノ稅率ニ依ラスシテ國稅又ハ府縣稅ノ附加稅ヲ賦課スル事
- 七、第百廿二條第二項第二項及第四項ノ規定ニ依リ數人又ハ市ノ一部ニ費用ヲ賦課セシムル事
- 八、第百廿四條ノ規定ニ依リ不均一ノ賦課ヲ爲シ又ハ數人若ハ市ノ一部ニ對シ賦課ヲ爲ス事
- 九、第百二十五條ノ規定ニ依ラスシテ夫役現品ヲ賦課スル事但シ急迫ノ場合ニ賦課スル夫役ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

十、繼續費ヲ定メ又ハ變更スル事

(附記) 北海道ノ區ハ町村ト相並ンデ北海道ニ於ケル地方自治體ノ一タリ大體内地ノ市ト其組織ヲ同ジウシ内地ノ市長ニ相當スル區長ハアレド市參事會ニ當ルモノナシ且國家ノ監督ヲ受クル程度市ニ比シテ重シ現今札幌、小樽、函館、室蘭、旭川ノ五區アリ

沖繩縣ノ區ハ同縣ニ於ケル地方自治體タリ是レ亦内地ノ市ト大體其組織ヲ同クス目下那覇、首里ノ二區アリ

### 第三章 町村制摘要

第六條 町村内ニ住所ヲ爲スル者ハ其町村住民トス

町村住民ハ本法ニ從ヒ町村ノ財産及營造物ヲ共用スルノ權利ヲ有シ町村ノ負擔ヲ分任スル義務ヲ擔フモノトス

第七條 帝國臣民ニシテ獨立ノ生計ヲ營ム年齡二十五年以上ノ男子二年以來町村ノ住民ト爲リ其町村ノ負擔ヲ分任シ且其町村内ニ於テ地租ヲ納メ若ハ直接國稅年額二圓以上ヲ納ムルトキハ其町村公民トス但貧困ノ爲公費ノ救助ヲ受ケタル後二年ヲ經サル者、禁治產者準禁治產者及六年ノ懲役又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラタル者ハ此限ニ在ラス

第八條 町村公民ハ町村ノ選舉ニ參與シ町村ノ名譽職ニ選舉セララルノ權利ヲ有シ町村ノ名譽職ヲ擔任スル義務ヲ負フ

左ノ各號ノ一ニ該當セサル者ニシテ名譽職ノ當選ヲ辭シ又ハ其課ヲ辭シ若クハ其職務ヲ實

ニ執行セサルトキハ町村ハ一年以上四年以下其町村公民權ヲ停止シ場合ニ依リ其ノ停止期間以內其者ノ負擔スヘキ町村税ノ十分ノ一以上四分ノ一以下ヲ増課スルコトヲ得

一、疾病ニ罹リ公務ニ堪ヘサル者

二、業務ノ爲常ニ町村内ニ居ルコトヲ得サル者

三、年齢六十年以上ノ者

四、官公職ノ爲町村ノ公務ヲ執ルコトヲ爲サル者

五、四年以上名譽職町村吏員、町村會議員又ハ區會議員ノ職ニ任シ爾後同一ノ期間ヲ經過セサル者

六、其他町村會ノ議決ニ依リ正當ノ理由アリト認ムル者

前項ノ處分ヲ受ケタル者其處分ニ不服アルトキハ府縣參事會ニ訴願シ其裁決ニ不服アルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第二項ノ處分ハ其確定ニ至ル迄執行ヲ停止ス

第三項ノ裁決ニ就テハ府縣知事又ハ町村長ヨリモ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第九條

町村公民第七條ニ於ケル要件ノ一ヲ闕キ又ハ同項但書ニ當ルニ至リタルトキハ其公民權ヲ失フ町村公民租税滯納處分中ハ其公民權ヲ停止ス家資分散若ハ破産ノ宣告ヲ受ケ其ノ確定シタルトキヨリ復權ノ決定確定スルニ至ル迄又ハ禁錮以上ノ刑ノ宣告ヲ受ケタルトキヨリ其ノ執行ヲ終リ又ハ其ノ執行ヲ受クルコトナキニ至ル迄亦同シ

陸海軍ノ現役ニ服スル者ハ町村ノ公務ニ參與スルコトヲ得ス其ノ他ノ兵役ニ在ル者ニシテ戰

時若ハ事變ニ際シ召集セラレタルトキ亦同シ

第十一條

町村會議員ハ其ノ被選舉權アル者ニ就キ選舉人之ヲ選舉ス

議員ノ定數左ノ如シ

一、人口千五百未満ノ町村 八人

二、人口千五百以上五千未満ノ町村 十二人

三、人口五千以上一万未満ノ町村 十八人

四、人口一万以上二万未満ノ町村 二十四人

五、人口二万以上ノ町村 三十人

議員ノ定數ハ町村條例ヲ以テ特ニ之ヲ増減スルコトヲ得  
議員ノ定數ハ總選舉ヲ行フ場合ニ非サレハ之ヲ増減セズ

但シ著シク人口ノ増減アリタル場合ニ於テ内務大臣ノ許可ヲ得タルトキハ此ノ限リニ在ラズ

第十二條

町村公民ハ總テ選舉權ヲ有ス但シ公民權停止中ノ者又ハ第九條第二項ノ場合ニ當ル者ハ此ノ限ニ在ラス帝國臣民ニシテ直接町村税ヲ納ムル者其ノ額町村公民ノ最モ多ク納税スル者三人中ノ一人ヨリモ多キトキハ第七條ノ要件ニ當ラスト雖選舉權ヲ有ス但シ六年ノ懲役又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者及第九條第一項ノ公民權停止ノ條件又ハ同條第二項ノ場合ニ當ル者ハ此ノ限リニ在ラス

法人ニ關シテモ亦前項ノ例ニ依ル

直接町村税ヲ賦課セサル町村ニ於テハ其ノ町村内ニ於テ納ムル直接國稅額ニ依リ前二項ノ規

定ヲ適用ス

前三項ノ直接町村税及直接國税ノ納額ハ選舉人名簿調製期日ノ屬スル會計年度ノ前年度ノ賦課額ニ依ルヘシ

第十三條 選舉人ハ別チテ二級トス

選舉人中直接町村税納額最モ多キ者ヲ合セテ選舉人全員ノ納ムル總額ノ半ニ當ルヘキ者ヲ一級トシ其他ノ選舉人ヲ二級トス但シ一級選舉人ノ數議員定數ノ二分ノ一ヨリ少キトキハ納額最多キ者議員定數ノ二分ノ一ト同數ヲ以テ一級トス

一級二級ノ間納稅額兩級ニ跨ル者アルトキハ一級ニ入ルヘシ兩級ノ間ニ同額ノ納稅者二人以上アルトキハ其町村内ニ住所ヲ有スル年數ノ多キ者ヲ以テ一級ニ入ル住所ヲ有スル年數同シキトキハ年長者ヲ以テシ年數ニ依リ難キトキハ町村長抽籤シテ之ヲ定ムヘシ

選舉人ハ每級各別ニ議員定數ノ半數ヲ選舉ス  
被選舉人ハ各級ニ通シテ選舉セララルコトヲ得

第十五條 選舉權ヲ有スル町村公民ハ被選舉權ヲ有ス

左ニ掲クル者ハ被選舉權ヲ有セス其之ヲ罷メタル後一月ヲ經過セサル者赤同ジ  
一、所屬府縣郡ノ官吏及有給吏員

二、其町村ノ有給吏員

三、檢事警察官吏及收稅官吏

四、神官、神職、僧侶其他諸宗教師

五、小學校教員

町村ニ對シ請負ヲ爲ス者及其ノ支配人又ハ主トシテ同一ノ行爲ヲ爲ス法人ノ無限責任社員重役及支配人ハ其ノ町村ニ於テ被選舉權ヲ有セス

父子兄弟タル緣故アル者ハ同時ニ町村會議員ノ職ニ在ルコトヲ得ス其同時ニ選舉セラレタルトキハ同級ニ在リテハ得票ノ數ニ依リ其ノ多キ者一人ヲ當選者トシ同數ナルトキ又ハ等級ヲ異ニシテ選舉セラレタルトキハ年長者ヲ當選者トス其ノ時ヲ異ニシテ選舉セラレタルトキハ後ニ選舉セラレタル者議員タルコトヲ得ス

議員ト爲タル後前項ノ緣故ヲ生シタル場合ニ於テハ年少者其ノ職ヲ失フ

町村長又ハ助役ト父子兄弟タル緣故アル者ハ町村會議員ノ職ニ在ルコトヲ得ス

第十六條 町村會議員ハ名譽職トス

議員ノ任期ハ四年トシ總選舉ノ第一日ヨリ之ヲ起算ス

議員ノ定數ニ異動ヲ生シタル爲新ニ選舉セラレタル議員ハ總選舉ニ依リ選舉セラレタル議員ノ任期滿了ノ日迄在任ス

補闕議員ハ其ノ前任者ノ殘任期間在任ス

第三十九條 町村會ハ町村ニ關スル事件及法律勅令ニ依リ其ノ權限ニ屬スル事件ヲ議決ス

第四十條 町村會ノ議決スヘキ事件ノ概目左ノ如シ

- 一、町村條例及町村規則ヲ設ケ又ハ改廢スル事
- 二、町村費ヲ以テ支辨スヘキ事業ニ關スル事但シ町村長其ノ他町村吏員ガ法令ノ定ムル所ニ

依リ掌ルベキ國府縣其ノ他公共團體ノ事務及法律勅令ニ規定アルモノハ此ノ限ニ在ラズ

三、歲入出豫算ヲ定ムル事

四、決算報告ヲ認定スル事

五、法令ニ定ムルモノヲ除クノ外使用料、手数料、加入金、町村税又ハ夫役現品ノ賦課徴收ニ關スル事

六、不動産ノ管理處分及取得ニ關スル事

七、基本財産及積立金穀等ノ設置管理及處分ニ關スル事

八、歲入出豫算ヲ以テ定ムルモノヲ除クノ外新ニ義務ノ負擔ヲ爲シ及權利ノ拋棄ヲ爲ス事

九、財産及營造物ノ管理方法ヲ定ムル事但シ法律勅令ニ規定アルモノハ此ノ限ニ在ラス

十、町村吏員ノ身元保證ニ關スル事

十一、町村ニ係ル訴訟及和解ニ關スル事

第四十七條 町村會ハ町村長之ヲ招集ス議員定數三分ノ一以上ノ請求アルトキハ町村長ハ之ヲ招集スヘシ

町村長ハ必要アル場合ニ於テハ會期ヲ定メテ町村會ヲ招集スルコトヲ得

町村會ハ町村長之ヲ開閉ス

第六十條 町村ニ町村長及助役一人ヲ置ク但シ町村條例ヲ以テ助役ノ定數ヲ増加スルコトヲ得

第六十一條 町村長及助役ハ名譽職トス

町村ハ町村條例ヲ以テ町村長又ハ助役ヲ有給ト爲スコトヲ得

第六十二條 町村長及助役ノ任期ハ四年トス

第六十三條 町村長ハ町村會ニ於テ之ヲ選舉ス

助役ハ町村長ノ推薦ニ依リ町村會之ヲ定ム町村長職ニ在ラサルトキハ前項ノ例ニ依ル

名譽職町村長及名譽職助役ハ其ノ町村公民中選舉權ヲ有スル者ニ限ル

有給町村長及有給助役ハ第二ノ規定ニ拘ハラズ在職ノ間其ノ町村ノ公民トス

第六十四條 町村長ヲ選舉シ又ハ助役ヲ定メ若ハ選舉シタルトキハ府縣知事ノ認可ヲ受クヘシ

前項ノ場合ニ於テ府縣知事ノ不認可ニ對シ町村長又ハ町村會ニ於テ不服アルトキハ內務大臣

ニ具狀シテ認可ヲ請フコトヲ得

有給町村長及有給助役ハ三月前ニ申立ツルトキハ任意退職スルコトヲ得

第六十七條 町村ニ收入役一人ヲ置ク但シ特別ノ事情アル町村ニ於テハ町村條例ヲ以テ副收入

役一人ヲ置クコトヲ得

收入役及副收入役ハ有給吏員トシ其ノ任期ハ四年トス

收入役及副收入役ハ町村長ノ推薦ニ依リ町村會之ヲ定メ郡長ノ認可ヲ受クヘシ

前項ノ場合ニ於テ郡長ノ不認可ニ對シ町村長又ハ町村會ニ於テ不服アルトキハ府縣知事ニ具

狀シテ認可ヲ請フコトヲ得

町村長、助役、收入役、副收入役ハ相互ニ父子兄弟タル緣故者ハ在職スルコトヲ得ザル者ト

ス

特別ノ事情アル町村ニ於テハ郡長ノ許可ヲ得テ町村長又ハ助役ヲシテ收入役ノ事務ヲ兼掌セ

シムルコトヲ得

第六十八條 町村ハ處務便宜ノ爲メ區ヲ劃シ區長及其ノ代理者一人ヲ置クコトヲ得

區長及其代理者ハ名譽職トス町村會ニ於テ町村公民中選舉權ヲ有スル者ヨリ之ヲ選舉ス

第六十九條 町村ハ臨時又ハ常設ノ委員ヲ置クコトヲ得

委員ハ名譽職トス町村會ニ於テ町村會議員又ハ町村公民中選舉權ヲ有スル者ヨリ之ヲ選舉ス

但シ委員長ハ町村長又ハ其ノ委任ヲ受ケタル助役ヲ以テ之ニ充ツ

常設委員ノ組織ニ關シテハ町村條例ヲ以テ別段ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第七十二條 町村長ハ町村ヲ統轄シ町村ヲ代表ス

第九十七條 町村稅トシテ賦課スルコトヲ得ヘキモノ左ノ如シ

一、國稅府縣稅ノ附加稅

二、特別稅

第九十八條 三月以上町村内ニ滞在スル者ハ其ノ滞在ノ初ニ遡リ町村稅ヲ納ムル義務ヲ負フ

第九十九條 町村内ニ住所ヲ有セズ又ハ三月以上滞在スルコトナシト雖町村内ニ於テ土地家屋

物件ヲ所有シ使用シ若ハ占用シ町村内ニ營業所ヲ設ケテ營業ヲ爲シ又ハ町村内ニ於テ特定ノ

行爲ヲ爲ス者ハ其ノ土地家屋物件營業若ハ其ノ收入ニ對シ又ハ其ノ行爲ニ對シテ賦課スル町

村稅ヲ納ムル義務ヲ負フ

第一百七條 町村稅ノ賦課ニ關シ必要アル場合ニ於テハ當該吏員ハ日出ヨリ日沒迄ノ間營業者ニ

關シテハ仍其ノ營業時間内家宅若ハ營業所ニ臨檢シ又ハ帳簿物件ノ檢査ヲ爲スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ當該吏員ハ其ノ身分ヲ證明スヘキ證票ヲ携帯スヘシ

第一百十條 町村稅ノ賦課ヲ受ケタル者ノ賦課ニ付違法又ハ錯誤アリト認ムルトキハ徵稅令書ノ

交付ヲ受ケタル日ヨリ三月以内ニ町村長ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得

財產又ハ營造物ヲ使用スル權利ニ關シ異議アル者ハ之ヲ町村長ニ申立ツルコトヲ得

第一百十一條 町村稅、使用料、手数料加入金、過料、過怠金其ノ他ノ町村ノ收入ヲ定期内ニ納メ

サル者アルトキハ町村長ハ期限ヲ指定シテ之ヲ督促シ町村條例ノ定ムル所ニ依リテ手数料ヲ

徵集スルコトヲ得

第一百二十七條 町村ノ第一次ニ於テ郡長之ヲ監督シ第二次ニ於テ府縣知事之ヲ監督シ第三次ニ

於テ內務大臣之ヲ監督ス

以上ハ一般町村制一級町村制ノ主ナル概目ヲ摘記セシ者ナルガ北海道ニテハ新開新拓ノ地東西

其狀ヲ異ニシ南北其軌ヲ一ニセズ而シテ民度ノ發達ニ遲速ノ別アリ町村ノ財力ニ強弱ノ差アリ

又之ヲ公共事業ノ興廢ヨリ觀ルモ之ヲ町村經濟ノ寬否ヨリ察スルモ兩者ノ間各其隆運ヲ異ニス

ルモノアレハ到底均一ノ繩墨ヲ以テ之ヲ規矩スルコト能ハズ故ニ現時尙ホ本道ノ町村ニハ一級

及二級ノ二制度並ニ戸長役場ノ制ヲ採用シ以テ其民度實力ニ適應セシメ居レリ今二級町村及戸

長制ノ大體ニ於テ之ヲ一級町村制ニ比シ其規定ノ異ナル二三ノ要點ヲ列舉スレバ概ネ左ノ如シ

(イ)公民權ノ規定ナシ

一級町村制ニハ公民及住民ノ權利ヲ規定シ住民ト公民トハ法律上其享有スル權利ヲ異ニセリ

然レトモ二級町村制ニ於テハ住民公民等ノ區別ヲ爲サ、ルヲ以テ町村住民タラサルモ選舉權

ヲ行フコトヲ得ヘク又公民タラサルモ議員及委員等ノ名譽職タルヲ得ヘキナリ

(ロ) 町村條例ノ規定ナシ

一級町村制ニ於テハ自治體ニ條例及規則ヲ設定スルノ權能ヲ與ヘタリ然レトモ二級町村制ニ於テハ町村規則ヲ設定スル權限ヲ附與シタルニ止マリ條例ニ關スル規定ナシ

(ハ) 町村長ハ公選セス

一級町村制ニ於テハ町村長、助役ハ町村會ノ公選ニ依ルモノナリト雖二級町村制ニ於テハ北海道廳長官ノ任命ニ委セリ又二級町村制ニハ助役ノ設ケナク上席書記ヲ以テ町村長ノ職務ヲ代理セシムルモノトナセリ

(ニ) 町村書記ハ支廳長之ヲ任免ス

一級町村ニ於ケル書記其他ノ附屬員ハ凡テ町村長ノ任免ニ屬スルモノニ二級町村ニ於ケル書記ハ支廳長之ヲ任免シ其他ノ附屬員ハ一級町村ト同シク町村長之ヲ任免ス

(ホ) 町村長書記ノ給料旅費ハ地方費ノ負擔トス

一級町村制ニ於テハ町村吏員ノ給與ハ總テ町村ノ負擔トナセリ然ルニ二級町村制ニ於テハ之ヲ地方費ノ負擔トナシ以テ町村ニ於ケル負擔ノ輕減ヲ計レリ

(ヘ) 地方費ノ補助ヲ受クルヲ得

二級町村ニ於テハ地方費ヨリ役場費ノ全部若ハ一部ノ補助ヲ受クルコトヲ得ルモノトナセリ是レ一級町村ニ見サルノ特例ナリトス

(ト) 町村會議員選舉ニ等級ナシ

一級町村ニ於ケル町村會議員選舉ニハ一級及二級ノ等級選舉ヲ行フモノニ二級町村ニハ之レカ等級ナシ

(チ) 町村會議員選舉ニハ代人選舉ヲ許ス

一級町村ニ於テハ町村住民ニアラサル直接町村稅多額納稅者以外ニ於テハ代人選舉ヲ禁セルモノニ二級町村ニ於テハ凡テ代人選舉ヲ許セリ

(リ) 書面會議ヲ爲スコトヲ得

一級町村ニ於ケル議事ハ如何ナル輕易ノ事件ト雖モ凡テ町村會ヲ招集シテ之ヲ議決セサルヘカラサルモノニ二級町村ニ於テハ簡易ナル事件ニ限リ會議ヲ開カス書面ヲ以テ議員ノ意見ヲ聞キ三分ノ二以上ノ同意アルキハ可決ト爲シ施行スルコトヲ得セシム是レ他ノ自治制ニナキ特例ナリトス

(ヌ) 現行町村制施行以前ニ在テハ全國各町村又ハ數町村ニ必ズ戸長一員ヲ置キシガ(明治十一年七月七號) 町村制施行後ニ於ケル町村ニハ町村長ヲ置キテ戸長ヲ廢シタルヲ以テ現今ニ於テハ北海

道中一、二級町村制ヲ施行セサル各村ニ戸長ヲ置キ以テ支廳長ノ指揮監督ノ下ニ行政事務ニ從事スルヲ見ルノミ而シテ戸長ノ事務所ヲ戸長役場ト云フ

税金  
第七編 税金並郵便電信及其料金

第一章 税金

其 一 月別諸納税一覽表

月別	目	收税區分	納税	備考
一月	田租	第一期	自十二月十六日 一月十五日限リ	地租額四分ノ一
一月	所得稅	第三期	一月一日ヨリ 一月三十日限リ	第三種所得稅額年額四分ノ一
一月	賣藥營業稅	前期	一月三十一日限リ	年額ノ二分ノ一
一月	宅地租	第二期	一月三十日限リ	地租額ノ二分ノ一
二月	田租	第二期	二月一日ヨリ 二月末日限リ	地租額ノ四分ノ一
二月	酒造稅	第三期	二月十六日ヨリ 二月二十八日限リ	前年十月一日ヨリ其年四月三十日迄査定石數ニ係ル稅額 四分ノ一其年五月一日ヨリ九月三十日迄査定石數ニ係ル 稅額二分ノ一
二月	北海道地租	第二期	二月末日限リ	宅地年額ノ五分

三	月	五	月	六	月	七	月
田租	酒造稅	所得稅	醬油造石稅	自家用醬油稅	鑛產稅	田租	北海道地租
第三期	第四期	第四期	第三期	後期	後期	第四期	第二期
三月三十一日限リ	三月三十一日限リ	三月三十一日限リ	三月三十一日限リ	三月 中	三月 中	五月三十一日限リ	五月三十一日限リ
地租額ノ四分ノ一	第一期第二期第三期納額ノ殘數	第三種所得稅年額四分ノ一	九月一日ヨリ十二月三十一日迄ノ間査定濟石數ニ係ル稅額	年額二分ノ一	前年分	地稅額ノ四分ノ一	田、畑、鑛泉、池沼、及山林、原野地租、年額ノ五分
						年額ノ二分ノ一	前年十月一日ヨリ其年四月三十日迄査定石數ニ係ル稅額四分ノ一
						年額ノ二分ノ一	一月一日ヨリ四月三十日迄ノ間査定濟石數ニ係ル稅額
						年額ノ二分ノ一	地租額二分ノ一

税金

月八	月九	月十	月一十
北海道地租	畑租	酒造税	所得税
第一期	第一期	第二期	第二期
七月三十一日ヨリ	九月三十日ヨリ	十月十六日ヨリ	十一月一日ヨリ
宅地租年額五分	地租額ノ二分ノ一	前年十月一日ヨリ其年四月三十日迄査定石数ニ係ル税額四分ノ一	第三種所得税年額四分ノ一
	地租額ノ二分ノ一	年額二分ノ一	地租額二分ノ一
	第三種所得税年額四分ノ一	中	地租額二分ノ一
			田、畑、鑛泉、池、沼、及山林、原野、年額二分ノ一
			五月一日ヨリ八月三十一日迄ノ間査定済石数ニ係ル税額

二十二月	注意
探掘鑛區税	一、酒精及酒精含有飲料税、麥酒税ハ毎月申ノ査定石数ニ依リ翌月中ニ納ムルモノトス
試掘鑛區税	一、取引所税ハ毎月分翌月末日迄ニ納ムルモノトス
砂鑛區税	一、臨時納期ヲ定メ徵集スルモノハ本表ニハ之ヲ省略ス
	一、本表ノ外ニ府縣並ニ市町村税及同附加税ハ概テ國税ノ納期ト同一ナリ

其二 地租税率

宅地、地價百分ノ二、五田畑地、地價百分四、五其他ノ土地、地價地價百分ノ五、五ナリ、但北海道ハ田畑地地價百分ノ三、二其他ノ價百分ノ四、〇ナリトス

其三 印稅紙法

一、證書ハ一通毎ニ其記載金高五圓以上ノモノニ限り左ノ割合ヲ以テ印紙ヲ貼用スヘキモノトス

記載金高一万分ノ五

一、左ニ掲クル證書、帳簿、證書ハ一通毎ニ帳簿ハ一冊一年以内ノ附込ニ對シ左ニ定ムル所ノ印紙ヲ貼用スヘキモノトス

一委任狀（印紙稅 金貳錢）

一爲換手形、一銀行預金證書、一船荷證券、一運送貨物換證、一倉荷預證券、一倉荷稅

税金



質入證券、一保險證券、一株券、一債券、一株式申込證、一物品切手、一賣買仕切書、一送狀、一受取書、一金高記載ナキ證書、一通帳、一定款及組合契約書、一權利ノ變更ニ關スル證書、一追認承認ニ關スル證書、一地上權、一永久小作權地役權ニ關スル證書、一使用貸借、賃貸借、雇傭、寄託、定期金ニ關スル契約證書、一擔保品差入証書、一擔保品預證書（以上印紙稅 參錢）

一判取帳（印紙稅 貳拾五錢）

金高 貳百圓以下 參錢 金高 參萬圓以下 壹圓  
 同 千圓以下 五錢 同 五萬圓以下 貳圓  
 一、約束手形 同 五千圓以下 拾錢 同 拾萬圓以下 五圓  
 同 壹萬圓以下 貳拾錢 同 拾萬圓以上 七圓  
 同 貳萬圓以下 五拾錢

一、左ニ掲グル證書帳簿ハ印紙稅ヲ納ムルノ必要ナキモノトス

一、官廳又ハ公署ヨリ發スル證書、帳簿、一官廳又ハ公署ニ職ヲ奉スル者ノ職務上發スル證書、帳簿、一國庫金ノ取扱ニ關シ發スル證書、一慈善又ハ公共事業ノ爲ニスル金員物件ノ寄附ニ關シ人民ヨリ官廳若クハ公署ニ提出スル證書、一俸給、給料、歳費、手當金、賞與金、年金、恩給金、扶助料、旅費、及救恤金ノ受取書、小切手、一金五圓未滿ノ爲替手形、納束手形、一金壹圓未滿ノ物品切手、一金高五圓未滿若ハ金高記載ナキ又ハ運送契約ニ依ラザル送狀、一金高五圓未滿若クハ金高記載ナキ營業ニ關セザル受取書、一金高五圓未

滿若クハ金高記載ナキ又ハ非營業者ニ發スル賣買仕切書、一主タル債務ノ證書ニ併セ記シタル擔保契約、一證券ノ裏書及手形ノ裏面ニ記載シタル受取書、一株券債券ノ讓渡ヲ證明スヘキ裏面記載、一手形ノ引受保證、一手形證券ノ拒絕證書、一手形及證券ノ複本 謄本

一、印紙稅ハ證書、帳簿ニ印紙ヲ貼用シテ納ムルモノトス  
 但シ印紙稅額ニ相當スル現金ヲ政府ニ納メ稅印ノ押捺ヲ受ケ印紙貼用ニ代フルコトヲ得

一、一冊ノ帳ヲ一年以上使用スルトキハ別帳ヲ調製シタルモノトス見做ス

其四 所得稅率

第	課稅價格	稅額	超ユル金額ニ對スル稅率
甲(合名會社)	五千圓以下	課價稅格ノ千分ノ四十五	千分ノ五十五
一	一萬圓	二、二五	六十五
二	一萬五千圓	五、〇〇	七十五
三	二萬圓	八、二五	八十五
四	三萬圓	一、二〇〇	百
五	三萬五千圓	二、〇五〇	

物品販賣業	業名	課税標準	税率
	賣上金額	卸賣	甲 万分ノ十一 乙 万分ノ十八
税金			甲 万分ノ三十一 乙 万分ノ三十五

營業者ヲ除キ十五歳未滿者及營業者ノ家族ニハ課税セス

其五 營業税率

考備	控除額	種	七、七〇〇	二百二十
		一、俸給、給料、手當、歳費	一、二、一〇〇	二百四十五
	二、第三種所得稅	一九、四五〇	二百七十	
		四六、四五〇	三百	

株式會社、株式合資會社ニシテ株主及社員ノ數二十人以下ヲ以テ組織シタルモノナルトキニハ其所得ニ對シテ第一種甲ノ税率ヲ適用ス  
 第一種甲ノ税率ヲ適用スル場合ニハ法人ノ事業年度ノ月數ヲ以テ十二月ヲ割リタル數ヲ其事業年度ノ所得金額ニ掛ケタモノニ對シ適用シ算出シタ金額ヲ十二分シ其事業年度ノ月數ニ掛ケ其稅額ヲ定ムルモノトス

第二種	種	乙 (株式會社、株式合資會社其他ノ法人)	四、〇五〇	百十五
		三	六、二三五	百三十
第三種	種	二	一〇、二五〇	百四十五
		一	三二、七五〇	百六十
		七	四〇、七五〇	百七十五
		八	二六五	八十
		九	四三五	七十五
		一〇	七五〇	五十五
		一一	一、三七五	四十五
		一二	二、一〇〇	三十五
		一三	三、八〇〇	二十五

課税價格ノ千分ノ七  
 (課税價格ノ千分ノ七)  
 課税價格ノ千分ノ二十  
 課税價格ノ千分ノ三十  
 課税價格ノ千分ノ四十

信間仲 業業業	代周 理旋 業業	旅 人 宿 業	料 理 店 業	請 負 業	鐵 道 業	倉 庫 業
從報 價業 金者額	從報 價業 金者額	從建 物賃 業賃 格者	從建 物賃 業賃 格者	職從 工勞 業役 者額	職從 工勞 業役 者額	職從 工勞 業役 者額
一人每 二分 三圓	一人每 三分 三圓	一人每 二分 七十五 圓	一人每 二分 百二十 圓	一人每 二分 五拾 錢	一人每 二分 五拾 錢	一人每 二分 五拾 錢

運送業、運河業、棧橋業、船 舶旋繫場業、貨物陸揚場業	寫出印製 真版刷造 業業業業	物金錢 品錢 賃賃 付付 業業	無保銀 盡險行 業業業	從建 物賃 業賃 格者額	從建 物賃 業賃 格者額	從建 物賃 業賃 格者額	從建 物賃 業賃 格者額
職從 工勞 業役 者額	職從 工勞 業役 者額	職從 工勞 業役 者額	職從 工勞 業役 者額	職從 工勞 業役 者額	職從 工勞 業役 者額	職從 工勞 業役 者額	職從 工勞 業役 者額
一人每 二分 五拾 錢	一人每 二分 五拾 錢	一人每 二分 五拾 錢	一人每 二分 五拾 錢	一人每 二分 五拾 錢	一人每 二分 五拾 錢	一人每 二分 五拾 錢	一人每 二分 五拾 錢

### 第二章 郵便電信及其料金

#### 其一 通常郵便物種類及料金

第一種 書	第二種 郵便葉書	第三種 每月一回以上刊行スル定期行物ニシテ認可ヲ受ケタルモノ	第四種 廣告郵便物	第五種 農産物種子
全部印刷シタル無封書狀及盲人用點字ノ無封書狀 大部分ヲ印刷シタル左記無封書狀 一、官公署、公共團體、社寺、學校又ハ營利ヲ目的トセサル法人若シ團體ヨリ發スルモノ 二、營業者ヨリ其營業ニ關シ發スル報告書、送狀、契約申込書、契約ノ承諾書ハ拒絕書、請求書、督促狀、計算書、見積書、明細書、領收書	通常 重量四匁又ハ其端數毎ニ 金三錢 往復 重量十匁又ハ其端數毎ニ 金二錢	普通 重量二十匁又ハ其端數毎ニ 金五厘 封緘 重量三十匁又ハ其端數毎ニ 金二錢	普通 重量三十匁又ハ其端數毎ニ 金二錢 留 重量三十匁又ハ其端數毎ニ 金一錢	普通 重量三十匁又ハ其端數毎ニ 金一錢

其二 小包郵便物種類料金	其三 郵便物容積及重量制限																																																																						
<table border="1"> <tr> <th>内地、臺灣、樺太、朝鮮、支那</th> <th>内地、臺灣、樺太、朝鮮、支那</th> <th>内地、臺灣、樺太、朝鮮、支那</th> <th>内地、臺灣、樺太、朝鮮、支那</th> <th>内地、臺灣、樺太、朝鮮、支那</th> <th>内地、臺灣、樺太、朝鮮、支那</th> </tr> <tr> <td>普通書</td> <td>普通書</td> <td>普通書</td> <td>普通書</td> <td>普通書</td> <td>普通書</td> </tr> <tr> <td>留</td> <td>留</td> <td>留</td> <td>留</td> <td>留</td> <td>留</td> </tr> <tr> <td>十二錢</td> <td>十八錢</td> <td>廿七錢</td> <td>卅六錢</td> <td>四十五錢</td> <td>五十五錢</td> </tr> <tr> <td>廿四錢</td> <td>卅四錢</td> <td>四十五錢</td> <td>五十五錢</td> <td>六十五錢</td> <td>七十五錢</td> </tr> <tr> <td>三十錢</td> <td>卅六錢</td> <td>四十五錢</td> <td>五十五錢</td> <td>六十五錢</td> <td>七十五錢</td> </tr> <tr> <td>卅六錢</td> <td>四十五錢</td> <td>五十五錢</td> <td>六十五錢</td> <td>七十五錢</td> <td>八十五錢</td> </tr> <tr> <td>四十二錢</td> <td>五十二錢</td> <td>六十二錢</td> <td>七十二錢</td> <td>八十二錢</td> <td>九十二錢</td> </tr> <tr> <td>四十八錢</td> <td>五十八錢</td> <td>六十八錢</td> <td>七十八錢</td> <td>八十八錢</td> <td>九十八錢</td> </tr> <tr> <td>五十四錢</td> <td>六十四錢</td> <td>七十四錢</td> <td>八十四錢</td> <td>九十四錢</td> <td>一圓</td> </tr> </table>	内地、臺灣、樺太、朝鮮、支那	内地、臺灣、樺太、朝鮮、支那	内地、臺灣、樺太、朝鮮、支那	内地、臺灣、樺太、朝鮮、支那	内地、臺灣、樺太、朝鮮、支那	内地、臺灣、樺太、朝鮮、支那	普通書	普通書	普通書	普通書	普通書	普通書	留	留	留	留	留	留	十二錢	十八錢	廿七錢	卅六錢	四十五錢	五十五錢	廿四錢	卅四錢	四十五錢	五十五錢	六十五錢	七十五錢	三十錢	卅六錢	四十五錢	五十五錢	六十五錢	七十五錢	卅六錢	四十五錢	五十五錢	六十五錢	七十五錢	八十五錢	四十二錢	五十二錢	六十二錢	七十二錢	八十二錢	九十二錢	四十八錢	五十八錢	六十八錢	七十八錢	八十八錢	九十八錢	五十四錢	六十四錢	七十四錢	八十四錢	九十四錢	一圓	<p>其三 郵便物容積及重量制限</p> <table border="1"> <tr> <th>通常郵便物</th> <th>小包郵便物</th> </tr> <tr> <td>容積 長 厚 幅 曲</td> <td>容積 長 厚 幅 曲</td> </tr> <tr> <td>八寸 五寸 一寸</td> <td>二尺 二尺 二尺</td> </tr> <tr> <td>五寸 三寸 五分</td> <td>二尺 二尺 二尺</td> </tr> <tr> <td>一寸 五分 三分</td> <td>二尺 二尺 二尺</td> </tr> </table>	通常郵便物	小包郵便物	容積 長 厚 幅 曲	容積 長 厚 幅 曲	八寸 五寸 一寸	二尺 二尺 二尺	五寸 三寸 五分	二尺 二尺 二尺	一寸 五分 三分	二尺 二尺 二尺
内地、臺灣、樺太、朝鮮、支那	内地、臺灣、樺太、朝鮮、支那	内地、臺灣、樺太、朝鮮、支那	内地、臺灣、樺太、朝鮮、支那	内地、臺灣、樺太、朝鮮、支那	内地、臺灣、樺太、朝鮮、支那																																																																		
普通書	普通書	普通書	普通書	普通書	普通書																																																																		
留	留	留	留	留	留																																																																		
十二錢	十八錢	廿七錢	卅六錢	四十五錢	五十五錢																																																																		
廿四錢	卅四錢	四十五錢	五十五錢	六十五錢	七十五錢																																																																		
三十錢	卅六錢	四十五錢	五十五錢	六十五錢	七十五錢																																																																		
卅六錢	四十五錢	五十五錢	六十五錢	七十五錢	八十五錢																																																																		
四十二錢	五十二錢	六十二錢	七十二錢	八十二錢	九十二錢																																																																		
四十八錢	五十八錢	六十八錢	七十八錢	八十八錢	九十八錢																																																																		
五十四錢	六十四錢	七十四錢	八十四錢	九十四錢	一圓																																																																		
通常郵便物	小包郵便物																																																																						
容積 長 厚 幅 曲	容積 長 厚 幅 曲																																																																						
八寸 五寸 一寸	二尺 二尺 二尺																																																																						
五寸 三寸 五分	二尺 二尺 二尺																																																																						
一寸 五分 三分	二尺 二尺 二尺																																																																						

小包郵便物	通常郵便物
容積 長 厚 幅 曲	容積 長 厚 幅 曲
二尺 二尺 二尺	八寸 五寸 一寸
二尺 二尺 二尺	五寸 三寸 五分
二尺 二尺 二尺	一寸 五分 三分

其四 郵便物特殊取扱料金

別配達料	一箇ニ付	陸上二里以内ハ金二十錢ニ墜テ超過シタルトキハ一里迄毎ニ金十五錢ヲ加フ 船料ハ別ニ其實費額ヲ受取人ヨリ徴收ス受取人之ヲ納付セザルトキハ差出人ヨリ徴收ス
留置通知料	一箇ニ付	金 三 錢
引受時刻證明料	同	金 十 五 錢
配達證明料	同	金 三 錢
内容證明料	同	金 三 錢
通常郵便物書留料	同	金 七 錢
價格表記料	同	金 七 錢
代金引換料	一口ニ付	金 五 錢
住宅引換料	一箇ニ付	金 五 錢

〔一通ノ贈本一枚ノモノハ金十錢ニ枚以上ノモノハ一枚ヲ増ス毎ニ金四錢ヲ加フ  
同時ニ二個以上同文ノモノヲ差出ストキハ内一箇ヲ除キ他ハ前記料金ノ半額  
通常郵便物書留料ハ金七錢以上表記金額十圓ヲ増ス毎ニ金五錢ヲ加フ  
物品十圓迄金十二錢以上表記金額十圓ヲ増ス毎ニ金五錢ヲ加フ〕

名宛變更及取戻料金

差立	前	〔差立準備前ガ〕 郵便ニ依ルモノ	金 五 錢
差立	後	〔郵便ニ依ル取戻〕 電信ニ依ル名宛變更	金 四 十 錢
差立	後	〔電信ニ依ル名宛變更〕	金 七 十 錢

其五 電報料金

通常電報料	一、同一市區町村内ノモノ	〔官報〕 私報	和文 五字以内 以上五字以内 増ス毎ニ	歐文 五語以内 以上一語ヲ 増ス毎ニ
	二、内地〔小笠原島ヲ除ク〕小笠原島臺灣樺太及朝鮮滿洲芝罘相互間ノモノ	〔官報〕 私報	和文 金十錢 金二十錢 金三十錢	歐文 金十五錢 金廿五錢 金三錢
	三、前各號以下ノモノ	〔官報〕 私報	和文 金二十錢 金三十錢 金五十錢	歐文 金廿五錢 金四十五錢 金五錢
至急電報料	内地ニ限ル	〔官報〕 私報	和文 一通〔同文電報ニ關シ〕 每ニ	歐文 一通〔同文電報ニ關シ〕 每ニ
間送電報料	内地ニ限ル	〔官報〕 私報	和文 一通〔同文電報ニ關シ〕 每ニ	歐文 一通〔同文電報ニ關シ〕 每ニ
電報ノ特殊料金	照校料	〔官報〕 私報	和文 一通〔同文電報ニ關シ〕 每ニ	歐文 一通〔同文電報ニ關シ〕 每ニ
	受信報知料	〔官報〕 私報	和文 一通〔同文電報ニ關シ〕 每ニ	歐文 一通〔同文電報ニ關シ〕 每ニ
	追尾料	〔官報〕 私報	和文 一通〔同文電報ニ關シ〕 每ニ	歐文 一通〔同文電報ニ關シ〕 每ニ

〔官報ハ通常電報料ノ二倍  
私報ハ通常電報料ノ三倍〕

通常電報料ノ四分ノ一  
五語ノ通常電報料  
五語ノ通常電報料  
金 三 錢  
原信ノ電報料ト同額  
原信ノ電報料ト同額  
和文ハ 金 十 錢  
歐文ハ 金 十五 錢

郵便電信及其料金

二五八

外國郵送料

一通毎ニ	金	二	十	錢
時間外取扱料	金	二	十	錢
但シ同文電報ニ關シテハ原信ヲ除外一通毎ニ	金	五	十	錢

電報受取證書料

一通毎ニ	金	三	錢
------	---	---	---

別使配達

著信局所ヨリ二里以内ハ 一通ニ付 金 二十錢

著信局所ヨリ二里ヲ超ユルトキハ一里以内毎ニ一通ニ付

(注意) 樺太島ニ於テハ別達ヲ爲サズ

別使料又ハ

電報ニ依ルモノハ 一通ニ付

郵便ニ依ルモノハ 一通ニ付

和文電報十四字ニ相當スル通常料金

電報配達料

島嶼宛別使配達

(注意) 配達實費本金額ニ超過シタルトキハ其不足額ヲ受信人ヨリ徴收ス

一通ニ付 金 二十錢

解船配達

樺太島内ニ於テハ解船配達ヲ爲サズ

一通ニ付 金 二十錢

書留郵便配達

一通ニ付	金	七	錢
一通ニ付	金	三	錢

電報閱覽料

電報正寫料

一通ニ付	和文二百字以内毎ニ	金	十五	錢
一通ニ付	歐文五十語以内毎ニ	金	十五	錢
一通ニ付	一通ニ付	金	五	錢

未送電報返還料

其六 郵便爲替料金及制限

通常爲替	金	貳	百	圓	
一爲替證書金額	證書一枚ニ付	金	貳	百	圓
電信爲替	金	拾	百	圓	
小爲替	金	拾	圓		

通常及小爲替ノ金額ニハ錢位未滿電信爲替ノ金額ニハ圓位未滿ノ端數ヲ付スルコトヲ爲サルモノトス

爲替金額	通常爲替料	電信爲替料
貳拾圓迄	拾錢	參拾五錢
貳拾圓迄	貳拾錢	五拾五錢
五拾圓迄	參拾錢	七拾五錢
百圓迄	四拾錢	九拾五錢
百五十圓迄	四拾錢	壹圓拾五錢
貳百圓迄	五拾錢	壹圓拾五錢
貳百五十圓迄	五拾錢	壹圓拾五錢
壹圓迄	貳錢	六錢
壹圓	伍錢	六錢

内地、臺灣、朝鮮、樺太、滿洲、支那、滿洲ヲ除クニ在ル郵便局所

郵便電信及其料金

二五九

一、ト各其以外ニ在ル郵便局所トノ間及支那ニアル郵便局所相互間ニ取組ム電信爲替料

五百圓迄	八拾錢
四百圓迄	壹圓拾錢
三百圓迄	壹圓四十錢
二百圓迄	壹圓七拾錢
一百圓迄	壹圓
五十圓迄	壹圓
二十圓迄	壹圓
十圓迄	壹圓

通常爲替證書送達料

證書一枚ニ付	金 五 錢
--------	-------

爲替金渡濟通知料

證書一枚ニ付	金 三 錢
--------	-------

爲替金拂渡停止又ハ其解除請求料

郵便ニヨルモノハ	金 三 錢
電信ニヨルモノハ	電報料ニ相當スル金額

爲會金拂渡濟否取調請求料

證書一枚ニ付	金 三 錢
--------	-------

有効期間經過爲替證書ノ爲替金拂戻請求料

爲替一ニ付	金 六 錢
-------	-------

爲替ニ關スル各種手續料

亡失毀損汚班爲替證書ノ爲替金拂戻請求料

爲替一ニ付	金 六 錢
爲替一ニ付	金 三 錢

爲替ノ拂渡又ハ拂戻局所ノ變更手續料

有効期間經過又ハ亡失毀損汚班爲替證書ノ再度證書請求料

電信爲替至急通報料

電信爲替料ニ相當スル金額

電信爲替證書別配達料

爲替一口ニ付	金 五 錢
爲替一口ニ付	金 三 錢

一、爲替證書有効期間

證書發行ノ日ヨリ	通常爲替	六 十 日
電信爲替	爲替	六 十 日
小爲替	爲替	六 十 日

(注意)

千島、琉球、小笠原嶋、伊豆諸島、臺灣、樺太、及朝鮮、鬱陵島ニ設置ノ局所ト取組ミタルモノハ九十日トス但シ同一國內又ハ同一島内ニ取組ミタルモノハ此限ニアラズ千島及樺太ニ設置ノ局所ト取組タル通常爲替及電信爲替證書ニ對シテハ毎年十二月一日ヨリ翌年四月三十日迄ハ其有効期間ニ算入セズ

其七 郵便貯金制限及其他

(イ) 一度ノ預入額 金拾錢以上

(ロ) 預入金總額 金壹千圓迄

一、貯金預入額制限

(注意) ロノ制限ヲ超過シタルトキハ制限内ニ引直スカ或ハ公債證書ヲ購入スルモノトス

一、貯金ニ預入レ得ベキ證券及利札

各種國債	新瀉縣債	滋賀縣債	山梨縣債	岐阜縣債
福井縣債	石川縣債	富山縣債	鹿兒島縣債	東京市債
京都市債	大阪市債	橫濱市債	神戸市債	長崎市債
廣島市債	高松市債	勸業債券(割増金付ノモノ共)		
貯蓄債券(割増金付ノモノ共)	興業債券	北海道拓殖銀行債券		

以上各種ノ債券及其利札ハ無記名ニシテ支拂開始セルモノニ限ル

郵便爲替證書（當該預入局所ニ於テ當該預ケ人ニ拂渡ヲナスベキモノニ限ル）

一 貯金 利子

利子ハ毎年三月卅一日ヲ區切り計算シテ元金ニ加フルモノトス  
利率年四分八厘

一 郵便官署ニ於テ購入保管スベキ證券

勸業債券（日本勸業銀行ニ於テ貯蓄債券  
賣出中ノモノヲ含ム）  
各種國債證券（外國ニ於テ發行シタルモノヲ除ク）  
拓殖債券  
日本興業銀行債券

一 證券ノ購入保管及ビ賣却料金

五圓券	一枚ニ付	五錢
十圓券	同	八錢
二十圓券	同	十錢
二十五圓券	同	同
五十圓券	同	十五錢
百圓券	同	二十五錢
五百圓券	同	八十五錢
千圓券	同	一圓六十錢

額面千圓以上ノ債券ニ對シテハ千圓迄ヲ加フル毎ニ一圓五十錢ヲ加フ  
但賣出中ノ勸業債券ノ購入ニ限リ一枚ニ付五錢トス

兵役の義務

日本は世界で一番立派な國體をもつた國である此一番立派な國體に生れたといふことは吾々日本人の此上もない仕合であり又誇りとすべきことである此仕合せと誇りとをだんく大きくして行くためには吾々日本人はいよく日本の國を榮耀させてゆくやうにしなければならぬ。それには日本人と名のつくものは男であらうが女であらうか國民として誰でも彼でもめい／＼に自分のすべき義務を一生懸命で盡さなければならぬ色々な義務の中一番大切なものが二つあるそれはいふまでもなく兵役即ち軍人になるといふこと、納税即ち税金を納めることである此二つは日本の臣民がどうしてもしなければならぬ最も大きな義務である。此二つの義務の中で兵役即ち軍人になるといふことは女子に關係のないことである。男子ならば不具か體の役に立たぬ病氣をもつたものでない限りは誰も彼も皆果さなければならぬことであるけれどもたとへ丈夫な體をもつて居るものでも重い罪につけられたものは決して軍人になることが出来ぬのである。して見ると日本男子中軍人になるといふこと即ち兵役に服するといふことはつまり健康な善い人間ばかりに出来ることである。だから日本男子の最も大きな義務であると同時にまた立派な名譽なことである。此立派な日本の國に生れて立派な名譽ある軍人になつて皇室を守り國を守りいざといふ時には勇ましく自分の體をすて、天皇陛下の御爲に御國のために潔よく死ぬことの出来るといふのは日本人としては名譽の中一番大きな名譽であるといはねばならぬ只世の中に生れきて何もすることなく死ぬること丈けならばどんな役にたゝぬ下等動物でもす



ることである、それを 天皇陛下のおん爲に死に御國の爲に死ぬるとゆふことが出来るといふのは日本國の男子として此上もない美しい名譽でなくて何であらうか。ゆめ兵役の義務をおろそかに思ふてなるべきか。しかるにもしも不心得のものありて兵役をいみきらひて遁れんとするならば、これぞ即ち日本國民の義務にそむき公權を輕んずる大罪を犯せるものにして許しがたき罪人なるものぞかし天罰いかで免れ得らるべき、心すべきことにこそ (陸軍歩兵大佐 岡 欽一)

附表第二

下士卒服役年一覽表

階級	種別	常							
		現	前						
下士	憲兵	前服役年月 ヲ通算シ	徵集年 ノ十二						
		但シ附 下士ニ	起算シ						
		起算シ	任官年 ノ十二						
		月ヨリ	計手ニ レシ年						
		十二月	樂手補 ヲ命セ						
		算シ	再入隊ノ 年ノ十二						
		起算シ	徵集年 ノ十二						
		算シ	前服 役年						
		三年	徵兵検査ヲ受 ケタル年ノ十 二月ヨリ通算						
		但シ三 ル年ノ	同上 二年 同上 ヲ命セ						
大正	大正	大正	大正	大正	大正	大正	大正	大正	大正

附表第三

附表第二

下士卒服役年一覽表

Main table for '下士卒服役年一覽表' with columns for rank (階級), category (種類), and service details (備考). It lists various military positions like 歩兵, 砲兵, 工兵, etc., and their respective service periods.

附表第三

下士卒服役年計算表

Table for '下士卒服役年計算表' showing numerical calculations for service years across different ranks and categories. It includes columns for '志願ニ依ル' and '下士卒'.

長官士官准士官下士官召集年次及日數表

Table for '長官士官准士官下士官召集年次及日數表' detailing the annual collection and number of days for various ranks. It includes columns for '召集年次' and '日數'.

附表第二

下士卒服役年一覽表

Main table for '下士卒服役年一覽表' with columns for rank (階級), type (種類), and service years (服役年). It includes detailed notes on calculation methods for various ranks and branches.

附表第三

下士卒服役年計算表

Table for '下士卒服役年計算表' showing calculation details for ranks from 大正一 to 大正八, including columns for rank (階級), type (種類), and calculation steps.

豫備兵上長官士官准士官下士後備兵演習召集年次及日數表

Table for '豫備兵上長官士官准士官下士後備兵演習召集年次及日數表' detailing training schedules and days for various ranks, including columns for rank (階級), type (種類), and days (日數).

下士卒服役年計算表

Table with columns for rank (兵, 卒), age (年齢), and service years (服役年). It lists various ranks like 歩兵, 騎兵, 砲兵, etc., and their corresponding service durations.

長官士官准士官下士官召集年次及日數表

Table detailing the annual collection (召集) and number of days (日數) for various ranks including 長官, 士官, 准士官, and 下士官. It includes columns for rank, collection year, and duration.

豫備役後備役兵 演習召集及補充兵教育召集年次及日數表

Table detailing the annual collection and number of days for reserve (豫備役) and auxiliary (後備役) soldiers, as well as training and recruitment for supplementary soldiers.

Summary table at the top of the page, likely providing an overview of the data presented in the main tables below, including columns for rank and service years.



願届出ツヘキ場合ノ一覽表

○印ハ願届出ヲ要スルコトヲ示ス  
△印ハ充員ノ場ヲ示ス  
●印ハ分會長トシテ官宛トス

Table with columns for 願届名 (Application Name), 願届数 (Number of Applications), 最初提出スヘキ所 (Initial Submission Location), 職階 (Rank), 官士准 (Official Status), 陸軍大臣宛 (Minister of War), 市町村會長宛 (Municipal/Local Official), 提出期日 (Submission Date).

補充兵證書附與後其年十一月三十日以前ノ者ハ轉籍地ノ町村役場ヲ經テ舊籍地ノ聯隊區司令官宛ニ差出スモノトス  
補充兵證書在在者ハ關東州内ニ居住シ又ハ關東州外ニ轉住シタル者ハ關東州内ニ居住シタル者トシテ舊籍地ノ町村役場ヲ經テ舊籍地ノ聯隊區司令官宛ニ差出スモノトス  
補充兵證書在在者ハ關東州内ニ居住シ又ハ關東州外ニ轉住シタル者ハ關東州内ニ居住シタル者トシテ舊籍地ノ町村役場ヲ經テ舊籍地ノ聯隊區司令官宛ニ差出スモノトス



終

